

# 平成28年度 入賞作品集

「少年の主張」  
中学生  
話し方大会

「家庭の日」  
に関する  
作文・図画



広島県の青少年の  
マスコット  
ゆっぴー

# 青少年育成の基本指針

(昭和 52 年 6 月 1 日青少年育成広島県民会議制定)

## 前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとするれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

## 青少年育成の基本指針

### (個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

### (社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

### (自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

### (世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

### (総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。

# はじめに

「少年の主張」・中学生話し方広島大会 2016（第 38 回「少年の主張」広島県大会，第 50 回中学生話し方大会）を広島県中学校話し方連盟と共催で，平成 28 年 9 月 17 日（土）に開催しました。

今大会には，県内中学校の 60 校から 7,248 編の応募があり，その中から原稿審査を通過した 24 名が，それぞれの主張を力強く発表しました。

全体的な発表内容としては，家庭・学校・地域社会において自ら体験した身近な事柄を通して深く考え，自分の考えを導き出していました。また，発表の仕方としては，静かであるけれど力強く，聞く人の心に伝わる話し方が育ってきたように思います。

この作品集には，発表者全員の顔写真と，その中で特に優秀な成績を修めた 11 人の発表内容を掲載しております。

「家庭の日」に関する作文・図画は，本年度も県内の小・中学生を対象に募集を行い，県内の小学校 70 校，中学校 58 校から作文・図画を合わせて 2,477 作品の応募がありました。

これらの作品は，日常生活において，親に感謝している心や家族と自分とのかかわり方で感動したことなど，自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

応募作品の中から事前審査を通過した作文 30 作品，図画 382 作品を厳正に審査し，特選作文 3 作品，特選図画 1 作品，入選作文 22 作品，入選図画 5 作品を掲載しております。

この作品集を多くの皆様にご覧いただき，小・中学生の思いを受けとめていただければ幸いです。

終わりに，この事業の実施に当たりご協賛いただいた国際ソロプチミスト広島，広島清流ライオンズクラブ，公益財団法人広島青少年文化センター及び県内 13 ロータリークラブ並びにご協力いただいた関係者の皆様方に深く感謝申し上げますとともに，今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 28 年 12 月

公益社団法人青少年育成広島県民会議

会 長 上 田 宗 岡

# 「少年の主張」に関する目次

○第38回「少年の主張」広島県大会・第50回中学生話し方大会会場風景	1
○第38回「少年の主張」広島県大会・第50回中学生話し方大会発表者一覧	2
○受賞者一覧	
<b>広島県知事賞、少年の主張全国大会文部科学大臣賞</b>	
戦争を知ること	広島市立二葉中学校 2年 牟田悠一郎 …… 5
<b>公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞</b>	
平和のバトン	三次市立布野中学校 3年 久敷かな …… 6
<b>広島県中学校話し方連盟会長賞</b>	
忘れない、そして伝える	安芸高田市立向原中学校 3年 新田 希穂 …… 7
<b>国際ソロプチミスト広島会長賞</b>	
見方を変える	呉市立昭和中学校 3年 岩井 彩樺 …… 8
<b>広島清流ライオンズクラブ会長賞</b>	
部活で学んだこと	呉市立白岳中学校 3年 東 義樹 …… 9
<b>優 秀 賞</b>	
命を預かる覚悟	竹原市立吉名中学校 3年 辰己 萌 ……10
リケジョが普通になる日	広島市立大塚中学校 2年 川本 絵莉 ……11
夢へ向かって	尾道市立因島南中学校 3年 村川 未来 ……12
ふるさとのやさしさ	北広島町立大朝中学校 2年 植田 すず ……13
ボランティアを通して	三次市立十日市中学校 3年 青田 龍生 ……14
その小さなことをする勇気を出そう	広島市立国泰寺中学校 1年 上田 真央 ……15
○講 評	
審査委員長 山本 名嘉子 東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所代表	……16
○第38回「少年の主張」広島県大会・第50回中学生話し方大会開催要領	……18
○審査員及び審査基準	……20
○第38回「少年の主張」全国大会～わたしの主張2016～内閣総理大臣賞 受賞作品	
障がいは個性	岐阜県関市立旭ヶ丘中学校 3年 大見 夏鈴 ……21

# 「家庭の日」に関する目次

## 特選（広島県知事賞）

### ●作文の部

広島市立翠町小学校	1年	亀岡 昌矢	みんなでんち……………	22
東広島市立三ツ城小学校	4年	門 香里	家族みんなの夏の思い出……………	23
広島市立中広中学校	1年	栗栖ころこ	～生命の誕生～そして感謝……………	24

### ●図画の部

東広島市立小谷小学校	2年	谷本 遼	ザリガニとったどー……………	46
------------	----	------	----------------	----

## 入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

### ●作文の部

広島市立牛田小学校	1年	小林 大悟	おにいちゃんがおしえてくれただいじなこと…	25
東広島市立高屋西小学校	2年	川久保 蕾実	家でいの日……………	26
熊野町立熊野第四小学校	2年	中野 光姫	わたしのかぞく……………	27
呉市立阿賀小学校	3年	實下 桃花	おじいちゃんのスイカ……………	28
東広島市立寺西小学校	3年	高尾 萌栞	わたしの家ぞく……………	29
東広島市立東西条小学校	4年	前永 蒼登	ぼくの妹……………	30
東広島市立下黒瀬小学校	5年	小田 創太	野菜作りと家族……………	31
東広島市立寺西小学校	6年	小林 未来	笑顔が生まれるもちマヨトースト……………	32
呉市立片山中学校	1年	齊藤 心優	行ってらっしゃいのあく手……………	33
三次市立八次中学校	1年	田原 匠	ぼくを支えてくれる家族……………	34
東広島市立中央中学校	1年	坂本 健太	大切な存在……………	35
広島学院中学校	1年	三原 大智	家族・祖父母への思い……………	36
東広島市立磯松中学校	1年	梶山 優斗	命と暖かさ……………	37
広島市立可部中学校	2年	藤本 さくら	「あたりまえ」が一番大事……………	38
呉市立郷原中学校	2年	中岡 義博	いのち……………	39
三原市立久井中学校	2年	門田 雅斗	僕とおばあちゃん……………	40
東広島市立西条中学校	2年	永松 凜	(本人の希望により掲載を辞退されました)	
東広島市立中央中学校	2年	中光 由陽	「行ってきます」が言えないわけ……………	41
呉市立吉浦中学校	3年	大宮 孝貴	あったかい夏……………	42
呉市立両城中学校	3年	久田 翔也	いつもと違った夏休み……………	43
三次市立布野中学校	3年	下野 段麗華	かけがえのない家族……………	44
坂町立坂中学校	3年	光井 満月	おかえりなさいの一言に……………	45

### ●図画の部

熊野町立熊野第一小学校	1年	中原 静那	かぞくでプールにいきました……………	47
広島市立飯室小学校	4年	安間 伊吹	家族4人でお風呂そうじ。ピカピカになりました。…	47
三次市立みらさか小学校	4年	加坂 結菜	年間行事を仲よく楽しんでいるカレンダー…	47
東広島市立西条小学校	6年	西村 悠	いとこ初めて森の中でキャンプをしました。…	47
広島市立牛田小学校	6年	大之木 里早	お正月、ひいおばあちゃんといっしょに…	47

平成28年度「家庭の日」作文・図画募集要項……………	48
----------------------------	----

審査員名簿及び審査要領……………	49
------------------	----

平成28年度応募校一覧……………	50
------------------	----

# 「少年の主張」・中学生話し方大会 2016

日時：平成 28 年 9 月 17 日（土）9：30～15：30

場所：エソール広島（広島市中区富士見町 11 - 6）



集合写真



大会開始前の客席



審査委員・会場風景



主催者及び来賓登壇



表彰式の風景

# 発表者一覧

---

---



基準  
『たった一つ。  
大きな夢』  
広島市立井口中学校  
1年 小山 莉佳



4番  
『思いやりの町尾道』  
尾道市立長江中学校  
1年 青柳智紗乃



1番  
『今と生きる』  
坂町立坂中学校  
2年 齋藤はづき



5番  
『伝えていきたい  
日本の伝統文化』  
広島県立広島中学校  
2年 大矢 佳苗



2番  
『部活から学んだこと』  
呉市立白岳中学校  
3年 東 義樹



6番  
『未来への一步』  
廿日市市立吉和中学校  
3年 小田 麻桜



3番  
『世界はつながっている』  
広島市立中広中学校  
2年 西川 夏妃



7番  
『優しさ』  
広島市立井口中学校  
1年 岡田 莉紗



8番  
『通学しながら考えたこと』

庄原市立東城中学校  
3年 引田 晶友



14番  
『この手で私たちに  
何ができるのか』

東広島市立河内中学校  
3年 槌本 有希



10番  
『その小さなことを  
する勇気を出そう』

広島市立国泰寺中学校  
1年 上田 真央



15番  
『幸せになるために』

広島市立瀬野川東中学校  
2年 濱本 涼花



11番  
『ボランティアを通して』

三次市立十日市中学校  
3年 青田 龍生



16番  
『環境保全について  
—身近なことから考える—』

庄原市立高野中学校  
3年 田中 綾太



12番  
『見方を変える』

呉市立昭和中学校  
3年 岩井 彩樺



17番  
『個性を認め合える社会』

広島市立伴中学校  
3年 平田さくら



13番  
『私の至福のひとつ』

尾道市立日比崎中学校  
2年 松川奈那美



18番  
『命を預かる覚悟』

竹原市立吉名中学校  
3年 辰己 萌



19番  
『忘れない、  
そして伝える』

安芸高田市立向原中学校  
3年 新田 希穂



24番  
『平和のバトン』

三次市立布野中学校  
3年 久敷 かな



20番  
『リケジョが普通になる日』

広島市立大塚中学校  
2年 川本 絵莉

※9番欠席  
『「己に勝つ」とは』

北広島町立豊平中学校  
3年 兼綱 陽里



21番  
『夢へ向かって』

尾道市立因島南中学校  
3年 村川 未来



22番  
『戦争を知ること』

広島市立二葉中学校  
2年 牟田悠一郎



23番  
『ふるさとのやさしさ』

北広島町立大朝中学校  
2年 植田 すす

# 広島県知事賞，少年の主張全国大会文部科学大臣賞



## 戦争を知ること

広島市立二葉中学校

2年 牟田 悠一郎

「あなたは広島に、いつ原子爆弾が落とされたか知っていますか？」テレビからふとそんな言葉が聞こえてきました。僕は「答えられない人なんている訳ないのに何でこんなインタビューしているんだろう。」とっていました。しかしその人たちの受け答えを見て僕は衝撃を受けました。「分かりません」「知りません」そう言って去っていく人ばかりで最後まで答えられた人はほとんどいなかったのです。確かにインタビューが行われていたのは広島県ではありませんでしたが「なぜ過去にあんなに悲惨なことがあったのにこの人達はだれも答えることができないんだろう。」次々に「分からない」と答えていく人達に僕は怒りすら感じていました。

その数日後のことです。たまたまその日の平和学習で原爆が投下された日時への質問に僕が答えることになりました。僕はもちろん自信たっぷりに「1945年8月6日午前8時15分です。」と答えました。すると先生は一度頷いてもう一つ質問をしました。「じゃあ長崎は？」僕はそこで止まってしまいました。1945年の8月、というところまでしか分からなかったからです。この前、広島に原子爆弾がいつ落とされたのか、答えられなかった人達に怒りさえおぼえていた自分が恥ずかしくて、広島のことだけを分かって偉そうにしていた今までが情けなくて、胸が苦しくなり僕はうなだれてその場に黙って座ってしまいました。

その日からです。僕は再び広島から、戦争、原爆についても一度知りたいと思いました。そこで僕は改めて原爆資料館に行きました。資料館の中はたくさんの人であふれかえっていました。ついこの前、アメリカの現大統領バラク・オバマ氏が広島を訪問したばかりだったからです。展示品を見ている大勢の人達は誰一人笑っていませんでした。最初は笑顔で中に入ってきた人達も、一つまた一つと資料を見ていくたびに顔を強張らせ、真剣な表情へと変わっていくのです。

オバマ氏の広島訪問には様々な意見が出ています。謝罪が無かったという人や、訪問することに意味などあったのか、という人もいます。果たして本当にそうでしょうか。資料館の中で最初は和やかな雰囲気だったグループが急に静かになったのはなぜなのでしょう。資料館に元気良く入っていく子供達がいとも表情を失って出てくるのはなぜなのでしょう。それは、戦争の恐ろしさを原子爆弾の破壊力を「知った」からだと思います。知ることによって人の心は動き、記憶するのです。確かに広島でのオバマ氏のスピーチは原爆投下についての謝罪もなく、具体性に欠けていたものだったのかもしれませんが。しかしアメリカのトップとして広島を「知る」。この行動こそが大きな意義を持ち、きっとオバマ氏の心も強く揺れ動いたはずで、その心は必ずこれからの核兵器廃絶につながると僕は信じています。

僕は祖父から戦争、原爆のことについて話を聞いたことがあります。僕の祖父も被爆者だったからです。原爆により、身体の半分に大火傷を負い皮膚がドロドロになった僕の曾祖父の話、火傷の部分から出てくるウジを祖父が毎日取っていたという話、どれも二度と思い出したくないであろう苦しい出来事、それを僕に一生懸命教えてくれる祖父を見ていると絶対に過去の過ちを繰り返してはならないそう思いました。

僕達には知る義務があります。二度と戦争をしないと誓った国「日本」で生まれたものとして、戦争を、原爆を、知らなければなりません。これが平和への大きな一歩となるはずで、そしてそれを後世に未来に伝えていくこと、それが僕達の使命であり責任です。

「あなたは広島に、長崎にいつ原子爆弾が落とされたか知っていますか？」—僕は次にあの遠い夏、長崎で何があったのかを知りたい、今度は仲間とともに。そう思っています。

# 公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞



## 平和のバトン

三次市立布野中学校

3年 久敷 かな

私の手には、一本のバトンが握られています。それは誰かに渡せばなくなるものではなく、いつも胸に抱え続ける大きな大きなバトンです。

昨年、私の祖父が初めて戦争の時の話をしてくれました。戦後70年という節目の年だったからでしょうか。ふだんの優しい祖父からは想像もつかない険しい表情で話し始めました。

芋のつるまで食べていたこと、1年中、継ぎはぎだらけのズボンを履いていたこと、洗濯は真冬でも冷たい川の水でしていたこと、紙や文房具などもなく、満足な教育を受けられなかったと、ぼつりぼつりと話してくれました。

「本当にひどい暮らしだったんじゃない。じゃけえ、二度と戦争なんかしちゃいけないのんじゃない。絶対に。」

最後にこう言って、二度と思い出したくないかのように黙ってしまいました。

祖父の言葉が大きな塊となって私の中に住みついたその夏は、多くの報道番組で戦争の悲惨さを再認識しました。中でも沖縄戦での少年ゲリラ部隊の話は、これまで誰にも話せなかったというつらい話で、85歳の祖父と同じ歳の方が語る姿が印象に残りました。

その年の9月に、修学旅行で長崎に行き、語り部さんから被爆体験を聴く機会がありました。あまりに衝撃的なお話で、私たちは身動き一つせずに聞き入りました。時おり聞こえてくるのは、先生のすすり泣きの声だけでした。その時、語り部さんが教えてくださった言葉があります。

「私たちは微力だけど無力ではない。」「戦争を体験していなくても、平和のバトンをつなぐことはできる。」

私はこの言葉に大きな力を感じました。祖父の話を聞いたあとから住みついていた塊は、平和のバトンという力強いものに生まれ変わったのです。語り部さんから手渡されたずっしりと重いバトンを、大切に抱えて生きていこうと決心しました。

修学旅行から帰るとすぐ、永井隆博士の本を読みました。如己堂のことが心に残ったからです。その本で読書感想文を書き平和を訴えました。さらに文化祭では、「平和のバトン」という劇を創作しました。1冊の本は別の誰かに読み継がれます。劇で表現することも平和のバトンとしての活動だと思うのです。

今年の5月、アメリカ大統領の広島訪問という歴史的な出来事がありました。ニュース映像を見ながらオバマ大統領の胸にも、平和を願うバトンがきっとあるのだと感じました。被爆者代表の坪井さんとオバマ大統領が握手する姿はまさに、被爆者の方々のバトンがしっかりと渡されている瞬間でした。

一人ひとりが持っているバトンの重さも大きさも違うけれど、みんな持っているはず。大切なことはそれを意識して行動できるかどうかです。何もしないでは平和を守ることはできません。私はこの夏、意見発表という形で、平和のバトンをつないでいきます。みなさん、私のバトンをしっかりと受け止めて下さい。そして、あなたのもっているバトンを次の人へとつないで下さい。

# 広島県中学校話し方連盟会長賞



## 忘れない，そして伝える

安芸高田市立向原中学校

3年 新田 希穂

「ピースプロジェクト」，これは，私が通っている向原中学校の行事の1つです。生徒会が中心となって，8月の始めの登校日に平和について全校で考える場として毎年行われています。今年も，8月5日に行いました。

今年のピースプロジェクトに私は去年とは違う特別な思いを持って臨みました。それは，図書委員長として，運営者の立場で関わることで大切なことに気付けたからです。

「今年は，何のモニュメントを作ってもらおうかな。」と気楽な気持ちでいた私に，「お前たちは今までモニュメントを作った時，平和について考えとったか。」という先生の一言が投げかけられました。この言葉は私の胸にささりました。考えていたとはとても言えず，私の思いの軽さをつきつけられました。企画する側がこれではいけない。なぜするのか考えなくてはならない。そんな思いが生まれてきました。

そこで，「ピースプロジェクトで，図書委員が戦争についての本を朗読してみない？」という先生に提案されていた企画をやろうと決めました。

企画を始めた当初は図書委員の口から，「めんどくさいなあ。」という声が出ていました。しかしいつの間にか，「へえ〜」「なるほど。」という声が出るようになりました。変わっていくみんなの意識を感じて，やってよかったという思いが強まりました。私もたくさんの知らなかった事実を知りました。「助けて」と言われたのに救えなかったと今でも後悔している人がいること。家族全員を失って，1人，何もないうちで生きてきた人がいること。建物に押し潰される恐怖を味わった人がいることなど。それら全てが私に，苦しみや悲しみをじわじわと伝えてきました。また，母に「戦争や原爆について何か知らない？」と，尋ねてみました。母は祖父に自分の兄が戦死したこと，戦時中は貧乏で大変苦労したことを聞いたと答えてくれました。

「でもそれ以外は話してくれなかった。」とも，教えてくれました。母の祖父のように言葉をとがす人も多いと聞きます。そして，他県には8月6日に広島に原爆が投下されたことでさえ，知らない人がいるそうです。あの時の苦しみや悲しみが薄れていくのは平和への思いが薄れていくのと同じことです。

去る5月27日，原爆を投下したアメリカから初めて現職の大統領が被爆地広島を訪問されました。この訪問の中で，被爆者の方がオバマ大統領と握手して笑顔になられていたのが心に残っていました。そのことを思い出して，私は笑顔の裏には，人生が狂わされたことや大切な人を奪われた悲しみや憎しみを越えた平和への強い思いがあったのだと思うようになりました。平和への道が被爆者の方を中心に，世界にも広がっていつている。私もその道を歩き，広げていく1人でありたい。そのために今，私にできることがあるはずだ。

そんな思いで，朗読した「ちいちゃんのかげおくり」。関心が高まるよう実施した「平和クイズ」。終わったあと，「伝わった」そう強く感じたのは，感想交流でのことです。ただ，「平和な世界にしたい。」というだけでなく，「自分はこうして平和な世界にする。」と具体的に言っている人が多くいて，率直にうれしいと思いました。忘れない，そして伝える。平和な世界にするために私ができるのはこのことだと確信しました。

今回学び，気付いたことは何十年たっても覚えておきます。そして，平和への強い思いが受け継がれるように伝えていきます。これからも，私は，本気で平和について考え，向き合っていこうと強く思います。

# 国際ソロプチミスト広島会長賞



## 見方を変える

呉市立昭和中学校

3年 岩井 彩 樺

去る7月26日、神奈川県相模原市にある障がい者施設「津久井やまゆり園」で19人もの人たちが次々と刃物で襲われ、尊い命が奪われるという事件が起きました。私はこのニュースを聞いたとき、どうして「障がい者」も同じ大切な命を持った1人なんだということがわからないんだろうと悔しい思いでいっぱいになりました。

皆さんは障がい者と聞くとどんなことを考えますか？1人では何もできない人？「かわいそう」「大変そう」…？

果たして本当にそうなののでしょうか？

私の弟はダウン症で成長が遅いという特徴があります。普通の子にとって「出来て当たり前」のことが、ダウン症の子にとっては、とてつもなく難しいことなのです。

例えば、小学校1年生の2学期までには書けるようになるはずの平仮名を、弟は4年生でやっとできるようになりました。ちょうちょ結びができるようになったのも中1になった最近のことです。

こんなことを聞くと皆さんはまた

「それはたいへんだ、かわいそう。」

という思いになるのでしょうか。

ところが、私たち家族はダウン症の子ができるようになるまでの時間が長い分、できた時の感動が何倍にもなるのです。母も、

「成長が遅い分、普通の子を育てるよりも発見や喜びが多いんだよ。」

と言います。

ダウン症はだいたい千分の一の確立で生まれてくるというのをインターネットで見ました。現在では医療も発展し、出生前診断といって、おなかにいるときにダウン症かどうか調べられるようになりました。その診断によってせっかく授かった命を中絶してしまうお母さんもいるそうです。また、子供がダウン症だと分かると、周りに知られたくないといって子供を隠してしまうこともあるそうです。

どうしてこんなことが起こるのでしょうか。それは差別があるからです。障がいを持った人のことを「がいじ」と言ったり、デイサービス等の施設を「変な人が集まるところ」と言っているのを耳にしたことがあります。そういう言葉を聞いたときに家族である私も深く心を傷つけられます。

誰にもどんなに頑張ってもできないことや苦手なことがあると思います。それと、障がいの何が違うのでしょうか。みんな年を取ればできないことが増えていきます。私たちは誰でも、もしかしたら事故や病気になって「障がい者」になるかもしれないのです。

目が悪ければメガネやコンタクトレンズの助けを借りて生活します。それと同じように年を取ったから、あるいは障がいがあるからみんなの助けがいるのです。そんな風にももの見方を変えることでみんながもっと過ごしやすくなるのではないのでしょうか。

私は将来、人に寄り添い、支えることのできる人になりたいです。そのためにも相手の思いに耳を傾け、相手の立場で考えていこうと思います。そうすることで人に対する偏見をなくすることが可能になると思うからです。

偏見のない世の中の実現一

それにはまだまだ時間がかかると思いますが、できることを、自分の身の回りから変えていきたいです。

# 広島清流ライオンズクラブ会長賞



## 部活から学んだこと

呉市立白岳中学校

3年 東 義 樹

僕には「先天性多発性関節拘縮症」という生まれたときからの病気があります。

この病気は、手足の関節が変形し、筋肉が収縮したまま伸びない病気です。小学生の時、周りの人達から「ゴリラ」と、よくからかわれていました。

「なんでそんなこと言われるんだろう。」と何度も何度も思うようになり、自分自身、この病気と立ち向かう勇気が持てませんでした。

しかし、小学校の先生が「障害は個性、隠さなくてもいい。」と、勇気が出る言葉がけをしてくださったお陰で自分の病気と向き合うことができるようになりました。

自分自身に自信が持てるようになった僕は、中学校で大好きなサッカー部に入部しようと決意しました。しかし、友達からは、「そんな体で何ができるん。」と、言われてしまいました。確かに、ボール拾いさえまともにできない僕は何をしてよいか分かりません。

そこで、顧問の先生に「サッカー部に入部してもいいですか?」「僕にもできることありますか?」と、恐る恐る聞いてみました。先生は「サッカーについてしっかり勉強して、みんなに良いアドバイスをして欲しい。」と、言われました。その瞬間、「自分にもできることがあるんだ。」と、思い、とても嬉しかったです。

入部してからは、チームのみんなに少しでもアドバイスができるよう、プロや高校の試合をたくさん見て勉強していきました。

昨年の夏、先生から「新チームのキャプテンは東だ。」と、いきなり発表がありました。ただ、車いすに座っているだけの僕にキャプテンが務まるのだろうか不安でいっぱいでしたが、周りの人達の後押しもあり、キャプテンを引き受けることにしました。

僕の中でのキャプテンの役割とは「ちゃんと練習させること。」という考えが強く、練習中は「だらだらすんな。」とか、時には暴言に近い言葉で怒鳴っていました。上から目線で怒鳴る僕に部員が「何もできないくせに。」と、小声でつぶやいているのを聞くと、腹が立ち、ますます部員を怒鳴りつけ、暴言を吐き、エスカレートしていきました。

ある日、僕がいつものようにグラウンドで怒鳴っていると、顧問の先生に呼ばれ、こう言われました。「東、君がサッカー部に入部した目的はなんだ?部員を怒鳴るために入部したのか?」と。その時、はっと、入部当初の気持ちを思い出しました。「僕の仕事は部員達にアドバイスすること。」それと同時に、前向きになれない僕を必死に勇気づけてくれた小学校の先生の言葉を思い出しました。

このことをきっかけに、部員に声をかける時は、「ドンマイ!大丈夫。大丈夫。最後までがんばろう。」と勇気が出るような言葉をかけるようになりました。その結果、最後の試合では同級生や後輩達から「東君と最後までサッカーできてよかった。」と、言ってもらえるようになりました。

僕が3年間のサッカー部の活動で学んだこと。それは、「どんな時でも、勇気を与えられる前向きな言葉をかけること。」僕はプレーヤーとして活躍することはできなかったけれども、僕の言葉でチームに勇気をもたらし、チームのみんなと勝つ喜びを味わうことができました。

自由に動けない僕は、これからも多くの人に助けってもらわないと生きていくことができません。

だけど、動けない代わりに、僕には話すことができます。「ドンマイ!大丈夫。大丈夫。最後までがんばろう。」勇気の出る魔法の言葉で多くの人を助けられる。そんな人間に僕はなります。



## 命を預かる覚悟

竹原市立吉名中学校

3年 辰 己 萌

去年の夏、8月29日。私が生まれる前から飼っていた犬。黒い大型犬のアルが亡くなりました。16歳でした。散歩に行く時は、決まって散歩をする人に合わせて歩いてくれる優しいアル。毎年遊びに行く川で、はしゃぐアル。泳ぐことが大好きで、とっても上手でした。アルは、家族の車の音や足音などを覚えていて、誰か帰ってくるとしっぽを思いっきり振りながら喜んでくれていました。そのアルの姿がもう見られないと思うと、涙が止まりませんでした。私の心にぽっかり穴が空いたのは、その時からでした。アルは、学校から疲れて帰ってきた私を何度も励ましてくれたり、笑顔にしてくれていました。

ちょうど亡くなる9ヵ月前のことです。倒れて自分で歩くことも食べることもできなくなりました。それまでは、食欲旺盛でとても元気でした。固形の食べ物は、もう食べることができなくなり、缶詰めと一緒にミキサーにかけて、注射器でゆっくりあげていました。水も自分で飲めないのに、家族でいつも気にかけていました。ずっと寝たきりだとこずれができてしまうので、向きを変えてあげたり、マッサージを欠かさず行ったりと、アルのために、一生懸命世話をしていました。しかし、アルが日に日に弱っていくのは、私達家族にもよく分かりました。

そして、8月29日。少し外出しないといけないう事があり、アルのことを気かけながらも家族みんなで外出をしました。用事を済ませ、帰ってくるといつもは小さく反応するアルが動きません。声をかけても反応せず、息を引き取っていました。まだ、温もりがあったので、本当に亡くなっているか信じられず、何度も触りながら話しかけました。しかし、その声に応えてアルの息が戻ることはありませんでした。アルは、一人ぼっちで私達の帰りを待ちながら、天国へ行ってしまったのです。そう思うと胸が締め付けられる思いです。あの時の事を思うと今でも後悔の気持ちでいっぱいです。

そんな時、ある新聞記事を読みました。「53,000」これは何を表している数字だと思いますか。この数字は、2014年度に自治体の保健所や動物愛護センターなどで保護された犬の数です。このうち、「22,000匹」引き取られた犬の約4割が殺処分されています。高齢の飼い主が、病気や死亡、施設への入所、経済的理由などから手放す例が多くなっているそうです。この記事を見て、許せませんでした。飼っている以上家族の一員なのに、どうしてそんなことができるのだろうと憤りを感じました。

最後まで責任を持って飼うことができないのなら、最初から飼わなければいい。「飼いはじめたら家族」捨てたり手放したりしないことです。

1年間で、50,000匹以上もの犬が行き場をなくし、20,000匹以上もの犬が殺処分されています。全て、人間の勝手な行動のせいです。すぐ側にある命を大切にしてください。最後まで責任を持って飼うことが、あなたの使命です。命を預かる覚悟を持って、犬を飼って下さい。一緒に住む以上、犬も家族の一員です。家族を大切に。命を大切に。



### リケジョが普通になる日

広島市立大塚中学校

2年 川 本 絵 莉

みなさんは、リケジョという言葉を知っていますか。これは、理系女子の略で、数学や理科などの理系科目を好む女性のことを指します。実は私もリケジョで、将来のことを考えていた時、このような記事を見つけました。「リケジョという言葉は女性差別ではないか」

初めはびっくりしました。私にとってこんなにも身近な言葉が差別だなんて……。しかし、しばらく考えているうちに、リケジョという考え方には言う方も言われる方も気付かない、無意識な差別があるのではないかと思うようになりました。

友達と好きな教科について話していた時のこと。「数学なんか大嫌い」という友達に対して放った私の一言は、周りの友達全員を固まらせてしまいました。

「え～数学の方が面白いよ！だって、例えばxの値が変化したら、yの値が規則的に変化するって、めっちゃすごくない？」

「やっぱりこいつ頭おかしいわあ」

こんな風に、数学のことを話して「変人」「普通じゃない」「頭おかしい」などと言われ、珍しがられるのは私にとって当たり前。そしてこれを嫌だと思ったり、気にしたりしたことは一度もありません。

そんな中で、リケジョという言葉が差別ではないかという意見を知りました。そんなことはありえない、だってリケジョである私自身がなにも気にしていないのに！でも私は本当に気にしたことがなかったのでしょうか。

なぜ私はリケジョなのか、なぜ私は普通ではないのかという疑問を持ったことがあります。その時の私は、リケジョである自分自身を認めていません。リケジョだということを「個性」ではなく「変なこと」として受け止めています。未だにリケジョを個性として受け止めることはできません。だって私は、どうせ変なんだから。

私は、リケジョであることを変だと言われて気にしたことはなかったはずでした。しかし、本当は気にしていた、でも今まで気付かなかった。気にしていないという気持ちは、「私は普通じゃない、だから変だと言われても仕方ない」という諦めの気持ちでしかありませんでした。軽い気持ちで発せられる「リケジョは普通じゃない。」これが作り出すのは、自分自身の個性をも受け入れられなくする無意識な差別なのだと気付きました。

これをきっかけに、リケジョのことや女性差別のことについて調べてみました。昔は女子教育の遅れや男女での職業の違いがあったこと、しかし現在は女性差別をなくそうという政策が、政府から一層叫ばれるようになったことなどを知りました。

今の日本は、男女平等な社会へと動き出しています。「リケジョ」という言葉から理系の女性が注目され、女性も理系に進みやすくなり、とても嬉しいです。ならば、より一層男女平等な社会にしたいです。リケジョがどんなに少なくても、個性として受け入れる、受け入れてもらえる社会がいいです。「リケジョは普通じゃない」この考えから生まれるような、自分の個性を受け入れられなくする無意識な差別はいりません。教育や職業の平等が実現したとしても、私達は無意識な差別と向き合い考え続けていく必要があります。

「普通じゃない」と言われる私は私自身を、個性として受け入れることから始めます。そしてこれからも、身近で無意識な差別と向き合い、考え続けます。リケジョがひとつの個性として、普通だと受け止められる日を目指して。



## 夢へ向かって

尾道市立因島南中学校

3年 村川 未来

「私は翻訳家になります。」

こう宣言した時、この夢への思いはより一層強いものになりました。2年生の時の立志式で私は全校生徒の前で翻訳家の夢を発表しました。

そもそも翻訳家になろうと思ったきっかけは、ハリー・ポッターシリーズを読み、松岡祐子さんの訳の表現力に驚き、発想の柔軟さに惚れたことです。初めて日本語訳の原作を読んだのは小学校3年生の時でしたが、当時の私でも物語を十分に楽しめました。今でも読み返したくなり、読む度に、物語の世界観に魅了されます。そんなハリー・ポッターシリーズは、私の永遠の愛読書です。「私も、人の心にずっと残るような作品を、これからの時代に残したい、日本で海外からの素晴らしい作品に親しんでもらうとともに、日本の伝統的且つ繊細な作品を、海外にも伝えたい」と思い、今、翻訳家を目指しています。

そのために今やらなければならないことは、とにかく多くの経験を積むこと、そして、多くの書物を読み、多くのことを学ぶことです。中学校に入ってから私は、機会があるたびに英語検定を受けるようになりました。漢字検定も、英語検定同様たくさん受けるようにしています。中学校卒業までには、両方とも準2級までは取得しておきたいと思っています。

そこで、私が翻訳家になるためにたてているプランがあります。まず、高校で国際教育コースに入ります。留学をしたり、海外の方々と英語でしっかり会話をして、高校にいる3年間、めいっぱい自分にできる最善のことをします。次に、大学では、文系を主に専攻できる大学に行き、その時には英語検定も漢字検定も1級を取得します。そして、大学を卒業したら、J T A公認翻訳専門職資格試験を受け、その後、出版社で働きながら、翻訳家の勉強をします。30代をめどに翻訳家になって、作家としても活動していく、というプランです。そして、その時には英語に関しては完璧になっておきたいです。

40代・50代までに、翻訳した作品と、自分で書きおろした作品の数を合計50冊程に重ねておきたいと思います。60代で引退しますが、まだ英語に関わることはやめません。外国人の友達づくりをしたり、世界一周するのが夢です。

いつか私が読んだ本の中に、こんな英文がありました。

「Declare your dream.」

「夢を宣言しよう。」という意味だそうです。それを読んだ時は、「良い言葉だな。」くらいにしか思いませんでしたが、夢を宣言した今だからこそこの言葉の意味が分かります。私は、夢を宣言しなかったら、「国語も英語も好きだから、将来はとりあえず翻訳家でいいか」という、中途半端な決意でこの夢へ向かっていたと思います。そんな決意だったらこれから先、当然、途中で挫折していると思うし、仮に翻訳家になったとしても全く楽しめなかったと思います。やはり、この夢を宣言した時、私の夢への思いはより一層強いものになりました。今、この夢を思うから色々なことを頑張れるし、私が勉強のことでくじけそうになった時の心の支えは、「翻訳家になりたい」という夢なんだと思います。

私は、この職業を、日本と世界をつなぐ仕事の1つだと思っています。しかしそう考えると、英語だけが全てではありません。いずれは中国語やイタリア語、フランス語を学び、世界中の人々に自分の思いや先人たちの思い、日本の文化を伝えていきたいです。

今の思いと今までに積んだ経験を活かし、これからも私は、夢へ向かって突き進んでいきます。



### ふるさとのやさしさ

北広島町立大朝中学校

2年 植田 すすず

「田舎。」—都会と違い田畑や山林の多いところ。辞書にはそのように説明されている。私は調べていて、ふと疑問に思った。田舎と都会の違いは、本当にそこだけなのだろうか。

テレビニュースを見ていると、アメリカのビックスターが出てきた。日本で撮影したときのインタビューが放映されていた。その中で、日本の記者が「次に日本に来たときはどこに行きたいですか。」と尋ねた。すると彼の口から予想外の言葉が返ってきた。「京都や地方の田舎に行きたいです。」

意外だった。意外すぎた。ビックスターから出てきた「田舎」というキーワード。なぜ、田舎に行きたいのだろう。もっと別の観光地があるのに。たくさんの疑問が、私の頭をよぎった。特に、私の最大の疑問点は「田舎の何がいいのか」ということだ。

私が住んでいる大朝は、田舎である。だから田舎の大変さはよくわかる。例えば、広島市内まで出るには何時間もかかる。周りは山が多いため虫も多い。地元の中学生は、ほとんどの人がこう言うだろう。「将来は地元ではなく、都会に住みたい。」と。

確かに都会は便利だ。田舎に住んでいる者から見れば、ぜいたくな場所だ。しかし、田舎のよさもある。自信をもって言えるのは、なんとといっても「人の温かさ」だ。

小学校5年生の時だった。飲み物を買うため、近所のお店に行き自動販売機にお金を入れた。ところが、ボタンを押しても押しても何も出てこない。おかしいなあと思いながら、もう一度お金を入れボタンを押したが、やっぱり何も出てこない。「お金がもったいないし、どうしよう。」と不安に思いながら、おそるおそる店に入りおばさんに話をしてみた。内心、信じてもらえないかなあと思いながら。しかし私の予想に反しておばさんは、「あら、本当に？ごめんね。」と、とても申し訳なさそうに謝ってくれた。そして、私が欲しかった飲み物と余分に入れたお金を返してくれ、お詫びにとたくさんのお菓子を持たせてくれた。私の話を信じ、接してくれたおばさんの気持ちは、本当にうれしかった。

こんなに優しさあふれるエピソードは、私のふるさとはたくさんある。「おはよう」「行ってきます」「お帰り」「ただいま」学校への行き帰り、自然に交わされるあいさつにも、人々の温もりが感じられる。だから、この大朝に心の底からほれこみ、他の地域から移り住んだ人もたくさんいる。旅を続けながら音楽活動をされている奥野勝利さんも、その1人だ。先日、私たちに寄せてくださったメッセージに「大朝に帰った時に、みんなが何気なく言ってくれる『こんにちは』『お帰り』が、カラカラの喉を潤す一口の水のようにありがたいです」とあった。人を包み込み、温かく迎え入れてくれるふるさとの良さを、奥野さんの言葉からあらためて気づかされたのだ。

正直に言うと、新しいものや好きなものをすぐ手に入れることができる都会に、私はあこがれていた。でも今は、都会ではなかなか感じるができない、人の優しさに包まれたふるさとを誇りに思う。

多くの人からもらった優しさ。これから私も、その優しさをたくさんの人たちに返しながらか、ふるさとで暮らしていきたい。



### ボランティアを通して

三次市立十日市中学校

3年 青 田 龍 生

13回。これは、僕が参加してきたボランティアの回数です。

最初にボランティアに参加したのは中1の6月。その時の僕は、「中学校に科学部を作る」という夢が破れ、未練をもちながら美術部に入ったところでした。その頃ちょうど中学校でボランティア活動が始まり、誘われて軽い気持ちで参加しました。朝、学校周辺をガラガラと掃除する、それが僕のボランティアデビューでした。

そんな僕の転機となったのは、2回目に行った「花植えボランティア」です。初めて会う地域の方と言葉を交わし、作業を進めていくとあっという間に100個近いプランターが並びました。

この活動で手ごたえを感じた僕は、ボランティアが紹介されると、片っ端から参加しました。江の川の清掃、ふれあい祭りのスタッフ、敬老会のお手伝い、桜ボランティア……。そんな中で出会ったのが「森づくりボランティア」です。

「森づくりボランティア」では、まず木を切るという作業を手伝いました。直径30センチくらいの木を切るのは、2、3人がかりです。苦勞しながらのこぎりを動かすこと15分。ミシミシと音をたてて木が倒れた後には、辺りに柔らかな日差しが差し込みました。その体験に魅了された僕は友達3人でその後何度も「森づくりボランティア」に参加しました。

何度目かの時、「森を活性化するために中学生の意見を聞きたい」と声をかけられました。行ってみると、思ったより改まった会議で、戸惑いながらも自分たちで考えられる案を出してみました。すると「中学生の意見は新鮮だな。」と受け入れてもらえたのです。ほっとしていたら、さらに「森をPRするイベントをするから、協力してくれないか」と声をかけられました。僕たちは迷いました。なぜなら、今までにない大きな活動だからです。ですが、僕たちの力を必要とくださる気持ちに応えたい。そんな思いもあり、僕たちは美術部のみんなを巻き込んで参加することにしました。

しかし、そこには、今までとは大きく違う点が2つありました。1つは、紹介されたボランティアに応募し参加する立場だった僕が、ボランティアを紹介し、参加を呼び掛ける立場になったことです。しかも、そのことで、美術部全員がボランティアに参加することになりました。2つ目は責任です。これまでのボランティアは、外部の人の話をしっかり聞いていればできるものでした。今回は、自分たちで計画し、行動する。特に、森のマップ作りは完全に自分たちに任されています。自分たちの1つ1つの行動に責任がありました。

始めてみると、やはり、途中から参加する人は森づくりに興味を示してくれません。人を巻き込んでするのは無理だと何度も投げ出したくなりました。それでも、一緒に森に行きスタッフの人と話をするうちに、みんなの様子は変わってきました。そうしてイベントは成功に終わったのです。

数々のボランティアを通して自分が成長したと感じることは2つです。1つは、地域に出ていろいろな人に接することで、視野が広がったこと。もう1つは、責任感です。行き詰った時、今までの自分だったら、投げ出さないまでも「人を巻き込むのは無理、仲のいい3人だけで……」と切り替えたと思いますが、森づくりボランティアでは違う方法ができました。

もし、あの時、科学部を創ることができていたら、こんなにボランティアに参加することはなかったかもしれません。思い通りにならなくても、そこから違う道が開けていく。そんなこともあるのだと、実感しています。

これからも僕は、ボランティアを通して、たくさんの人と、「新しい自分」に出会うつもりです。そして、社会に貢献できる人に成長していきたいと思っています。



## その小さなことをする勇気を出そう

広島市立国泰寺中学校

1年 上 田 真 央

小4の時、私はフットベースボールの試合で故障し、3ヶ月間右ひざを曲げられない状態になりました。練習は見学ばかりで友達と遊ぶこともできず、気分がいらだち、暗く沈んでいきました。そんな私の様子に気づいた友達は、いつも外で遊ぶのに、休憩時間私に付き合い色々な話をしてくれました。たぶんあの頃の私は、近寄りづらく、幾分ひねくれた感じだったと思います。それでも私に近づき、立場を思いやってくれたのが本当にうれしくて、それ以来、思いやりを人に返していかうと思いました。家に帰って母に話すと「すごくいい考え。母さんもやってみよ。」と共感してくれました。早速、学校で友達にいろいろと親切にしました。「ありがとう、助かったよ」と笑顔で言ってくれることがうれしくて、さらにいろいろな人を助けたいと思うようになりました。

そんなある日のこと、病院の駐輪場で、あるおばあさんが誤って自転車を10台ほど倒してしまふ場面に出くわしました。「大変そうだな」私は早速行って一緒に自転車を起こそうとしました。その時です！「何やってんだよ。壊れたらどうしてくれるの！」若い男の人が強い口調で言い、さらにおばあさんをひどい言葉で罵っていました。おばあさんは、苦笑いをして「すみません」と繰り返り返し、1人で自転車を起こし始めました。男の人は自分の自転車が起こされた途端、おばあさんから奪い取って行きました。その後、おばあさんは倒れた自転車を一人で全部起こし、帰って行きました。私は、ずっと見ているだけでした。知らない人に声をかける緊張と、男の人のすごい剣幕で、何もできなかったのです。

家に帰ってからも、おばあさんの悲しそうな横顔が忘れられませんでした。「あの時、せめて自転車を起こすのを手伝ってあげたら…。かわいそうなおばあさん。」自分の行動を悔やみました。しかし、おばあさんの暗い表情や男の人の剣幕にとまどい、人助けに恐怖心を持ち始めました。

そのことを母に伝えました。母は黙ったまま聞いていて、私が話し終わると、どう言っているかわからないという様子でただ「がんばって」と言いました。

その後2、3日経って、母が私に言いました。「親切にするのはなかなかできることじゃないよね。でも、行動すれば誰か助かる人がいる。だからせめて自分にできることだけでもしてあげてみたら？それだけでも立派なことよ。」と。「そうか、学校ではすぐに感謝された。だから気が付かなかった。ちょっとしたことでいい。何もしないよりずっといい。でも、その小さなことをする勇気が、私になかったんだ。」母の言葉で、大変な忘れものをしていたことに気がきました。

数日後、電車に乗っていると重いリュックを背負って立っていたおばあさんがブレーキの反動で倒れそうになる場面に出くわしました。周りは誰も何もしません。すぐに声をかけ、席を譲りました。「ありがとう、助かったよ。」おばあさんの声に、「勇気を出して良かった」と思いました。

心の整理ができました。小さなことでいい。行動に移す勇気を出そう。これを実行することが、かつて私がしてもらった思いやりに対する、本当の恩返しだと。



## 審査委員長

東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長

## 山本 名嘉子

発表者の皆さん、大変ご苦労さまでした。7,000件を超える応募の中で、今日は25人の方の発表をお聞きしました。それぞれに素晴らしい発表で、いまだにその感動が残っております。今日までの皆さんのご苦労、努力、そして指導者の先生、保護者の方、皆さん大変な思いで過ごされてきたと思います。本当にご苦労さまでございました。

今日、私があらためて思いましたことは、この会が持てる、この会を開催することが出来るということの幸せ、学校や保護者はもちろんのことですけれども、各地域の方々のご支援があって今日の会があるということです。そして、さらに、運営をしてくださるの方々のご協力があることです。司会の方も大変立派な司会でした。そういったことに感動しながら、講評をさせていただきます。素晴らしい発表を十分に受けとめることができなかつたかもわかりませんが、お許しをいただきたいと思えます。

審査は、基準に示してありますように、8項目ありまして、大きくは「内容」、論旨、テーマといった点ですね。それから、それをいかに組み立てて伝えていくかという論旨の「構成」の面。もう一つは、話し方の問題です。今日は「話すこと」によって伝えるわけですから、どうしてもその「話す」ということが大きな問題になってまいります。全体的に聞き手によく伝わったかどうか、感銘を与える話であったかどうかなど。これらのことを中心にみていきたいと思えます。

まず、内容につきましては、学ぶべきことはたくさんございます。多くの皆さんが、身近なことから深く考えて、広く考えて、そして自分の考えを持ち、さらにそれを実行していく、実践をしていくという、そういう素晴らしい過程をたどっている方が多かつたように思えます。例えば、青田さん（三次市立十日市中学校3年）。「ボランティアを通して」では、身近なこと、ボランティアを通して、自分の体験を通して学び、人とつながっていき、大きくなっていく、その過程を非常に明るく、力強く話していただきました。感動いたしました。

身近なことに目を向けて、そのことから問題を発見し、考えていく。例えば、「リケジョ」という言葉を掘り下げていった川本さん（広島市立大塚中学校2年）。ちょっと見過ごしてしまいそうな言葉ですけれども、それをもとに深く考えて掘り下げていきました。そうしていくところに、自分の成長というものがある、それを分かりやすく伝えていただいたというふうに思えます。

「戦争と平和」ということを取り上げた方もたくさんありました。戦争を伝えていきたい、次へ伝えていかなければいけない。それを表面的な言葉ではなくて、具体的な事実から考えていった車田さん（広島市立二葉中学校2年）。身近なこと、見過ごしてしまいそうなことから考えていく。

それが随所にうかがえて、すばらしかったと思います。

内容としては、自分の体験を通して、生活を通して考え、学んでいくことが発表者の皆さんに共通して感じられたことがすばらしいことだと思います。このことを忘れないでほしいと思います。

そして、出来得れば、考えたことを行動に移していただきたい。それは友達と話すことでもありますし、本を読むことでもありますし、何かの事業や行事に参加することでもあります。

もう一つは、発表についてです。この会は、話すということがメインでありますので、話すということについて考えてみたいと思います。極端に強調したり、あるいは大きな声を出したりということは、みられなくなってきました。しかしながら、静かに話せばいいというわけではありません。理想的には、静かであるけれども力強い。そして聞く人に伝わっていく、熱意が感じられる。話す人の熱意が感じられる。こういうような話し方ができればいいと思います。「戦争を知ること」で話された牟田さんなどは、そのことが十二分に出来ていたように思います。さらに多くの人に、そのことが出来てきはじめて、話すという力が育ってきました。「忘れない、そして伝える」という題で話された新田さん（安芸高田市立向原中学校3年）もそうです。「話すこと」、「言葉は伝わる」ということに関心を持って、たぶん自分の声を耳で聞きながら話しているのではないかと思います。そういう、静かであるけれども力強い、そして相手に伝えていく、このようなことが出来るようになってきたということは、大変うれしいことだと思います。ずいぶん努力されてきたのだと感じます。

さらに内容の面で付け加えていきますと、例えば「新しい視点」ですね。「伝えていきたい日本の伝統文化」で、お茶の世界、茶道の文化を伝えていきたいというふうに話された大矢さん（広島県立広島中学校2年）。地味ではありましたが、これから日本人としてわれわれが生きていく上には、この日本の伝統文化というものをもう一度きちんと受けとめて育て、そして、自分たちも体験していくということが重要なのではないかと思います。

もう一つ、身近なことではありますけれども、「環境保全について身近なことから考える」と題して話された田中さん（庄原市立高野中学校3年）。教科書の文章を引用しながら、生命も自然も人間も、つながりを持った、とても大事なものであるということを、釣りなどの体験を通して話してくれました。目立たないような題材であったと思いますけれども、ぜひともこれから大切にしていきたいというふうに思うところです。

皆さんの発表はすばらしかったので、この辺で終わりたいと思いますけれども、どうぞ今日までに大変努力をなさったこと、自分なりに考えたり悩んだりしながら、練習をしたり、言葉を考えたりした、そういうことを大事にして、そのことを力にして、これからの社会を生きていってほしいと思います。そして社会のために役立つ人になってほしいと思います。自分が考えたことを、それを自分だけのものにしないで、こういった場で発表すること、あるいは友だちと話してみることに、誰かに伝えてみることに、このような活動を通して、自分の考えをさらに広げるとともに、また読書をし、確かなものにしていけたらいいなと思います。そして、どうぞこれからの社会を担っていく大きな力になっていただけたらと思います。簡単ですが、以上で終わります。どうもありがとうございました。

# 「少年の主張」・中学生話し方大会 2016

## 第 38 回「少年の主張」広島県大会開催要領 第 50 回中学生話し方広島大会開催要領

- 1 趣 旨 21世紀の国際社会に生きる子どもたちには、論理的に物事を考える力、自分の主張を正しく伝える力、広い視野と柔軟な発想や創造性などを身につけることが求められている。  
この大会は、中学生が話すことによって伝える力を育み、学び合う機会となるとともに、意見発表を通して、中学生への理解と認識を深めてもらうことをねらいとする。
- 2 対 象 広島県内の中学生
- 3 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議・広島県中学校話し方連盟  
独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 4 協 賛 国際ソロプチミスト広島・広島清流ライオンズクラブ  
(公財) 広島青少年文化センター
- 5 後 援 広島県・広島県教育委員会・広島市・広島市教育委員会・広島県公立中学校長会・  
広島県私立中学高等学校協会校長会・中国新聞社・NHK広島放送局・中国放送・  
広島テレビ放送・広島ホームテレビ・テレビ新広島
- 6 開催日時 平成28年9月17日(土) 9:30~15:30
- 7 日 程 9:00~9:30 受付  
9:30~9:45 開会行事  
9:45~12:00 発表「午前の部」  
12:00~13:00 出場者記念撮影, 昼食  
13:00~14:00 発表「午後の部」  
14:00~14:30 「少年の主張」全国大会のDVD上映  
14:30~15:30 審査発表, 表彰, 閉会行事
- 8 開催場所 エソール広島  
広島市中区富士見町1-1-6 (電話082-242-5252)
- 9 発表内容 次のA,B,Cの中から、日ごろ心に思っていること、考えていることや感じていることを、自由でユニークな発想と、飾り気のない言葉でまとめたもの。  
A 社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。  
B 家庭、学校生活、社会(地域活動)または、身の回りや友だちとの関わりなど。  
C テレビや新聞などで報道されている社会の様々な出来事に対する意見や感想・提言など。

- 10 発 表 小道具は、使用しない。  
**発表時間は5分程度**（目安として400字詰め原稿用紙4枚程度）  
ただし、6分を超えるものは審査対象外となりますので、ご注意ください。
- 11 応募方法 申込書に原稿を添えて、中学校長を経由して提出する(原稿は返却しない)。  
ただし、市町、青少年育成市町民会議等の類似の大会で入賞した中学生の応募も可とする。  
この場合、市町等においてその旨を付記して、市町等から提出するものとする。  
原稿は原則**400字詰め原稿用紙（A4判縦書き）を使用すること**。（学校等で使用される B4判縦書きも可とする。）
- 12 申込締切 **平成28年8月9日（火）必着**
- 13 事前選考 提出された原稿を主催者において審査し、大会出場者を決定する。なお、大会の出場資格を得た者については、各中学校長等あてに8月末日までに通知する。
- 14 審 査 審査は、学識経験者、マスコミ関係者、関係行政機関の職員、(公社)青少年育成広島県民会議及び広島県中学校話し方連盟並びに協賛団体の代表者によって構成する審査会で行う。
- 15 表 彰 広島県知事賞・(公社)青少年育成広島県民会議会長賞・広島県中学校話し方連盟会長賞・国際ソロプチミスト広島会長賞・広島清流ライオンズクラブ会長賞（各1名）、優秀賞（6名程度）及び優良賞を選考し賞状を贈る。
- 16 副 賞 この大会で、広島県知事賞、(公社)青少年育成広島県民会議会長賞、広島県中学校話し方連盟会長賞、広島清流ライオンズクラブ会長賞、国際ソロプチミスト広島会長賞を受賞した5名には、副賞（約1週間の海外研修）が(公財)広島青少年文化センターから授与される。  
時 期：平成29年8月上旬予定  
訪問先：韓国
- 17 そ の 他 この大会で、県知事賞を受賞した者を、独立行政法人国立青少年教育振興機構主催の「少年の主張」全国大会（11月13日(日)東京で開催）への出場候補者として推薦する。
- 18 問い合わせ先 公益社団法人青少年育成広島県民会議「少年の主張」係  
申込み先 〒730-8511 広島市中区基町10-52（広島県環境県民局県民活動課内）  
電話 082-513-2742  
ファクス 082-511-2173

# 審査員及び審査基準

## 1 審査員

審査員長	山本名嘉子	東京教育研究所主任研究員・広島教育実践研究所所長
審査員	清川 徹	元NHKアナウンサー
//	倉迫 昭宏	広島県環境県民局県民活動課長
//	黒小 大介	広島県教育委員会義務教育指導課指導主事
//	齋藤 司	広島県中学校話し方連盟顧問
//	田中 千秋	広島清流ライオンズクラブ会長
//	田原 直樹	中国新聞社論説委員
//	樽谷 和子	公益財団法人広島青少年文化センター館長
//	津田 智子	広島市教育委員会指導第二課指導主事
//	堀江 嘉子	国際ソロプチミスト広島会長
//	山内 吉治	公益社団法人青少年育成広島県民会議副会長

(50音順, 敬称略)

## 2 審査の基準

概ね次の点を採点ポイントとし、内容、論旨、態度等総合的に評価を行う。

- ① 鋭い感性で、新鮮な主張であるか。  
(柔軟な発想に基づく意見や提言、未来への希望や夢・メッセージ、新しい情報や視点など)
- ② 具体的な内容とともに、一般性・社会性の広がりがあるか。
- ③ 提案や提言を実現・実践する意欲や積極性が感じられるか。
- ④ 論旨が一貫し、構成がしっかりしているか。
- ⑤ 発表に熱意が感じられ、迫力があるか。
- ⑥ 主張の内容が感銘と共感を与えているか。
- ⑦ 説得力のある話し方であるか。
- ⑧ 発表の早さや間のおき方、姿勢が適当であるか。

# 内閣総理大臣賞 受賞作品

---

## 障がいは個性

岐阜県 関市立旭ヶ丘中学校

3年 大見夏鈴

みなさんは、障がい者についてどう思いますか。私は、自分が障がいをもっているの、健常の人にどう思われているのか気になります。

私は2才の時に罹った病気の後遺症により、耳が全く聴こえなくなりました。そして、人工内耳をつける手術をしました。しかし、はっきりと聴こえるようになったわけではないので、困ることがたくさんあります。例えば、字幕のついていないテレビ番組を観ても内容が全く分かりません。プールでは人工内耳を外せば何も聴こえない状態です。みんなが話していても話の輪にうまく入っていけないこともあります。また、歌は好きですが、自分の歌う声が聴こえないため、自信をもって歌うことができません。

みなさんは、障がい者はかわいそうだと思いますか。

耳の聴こえない私は、かわいそうですか。

今、日本の自殺者は年間2万5千人近くいるそうです。その中に、障がい者は何人いるでしょう。障がい者をかわいそうと思うより、悩んで辛い思いをしている人たちを助けてあげてほしいと私は思います。障がい者の中には、サークル活動などで楽しく過ごし、自分の障がいをきちんと受け止めている人たちが多くいます。

私は障がいを個性だと思っています。私は、聴こえないことをつらいと思う時もありますが、悲しくはありません。それ以上に楽しいことがあるからです。それは、手話で話をする事です。手話は聴こえない人の欠かせない言語です。声での会話は、テレビを観ながらでもできますが、手話での会話は、相手に集中しないと成り立ちません。適当に聞くのではなく、相手の表情や口の動き、手の動きを見ながら相手の気持ちを考えて聴きます。つまり、いつも相手と正面から向き合っているのです。私は手話のそんなところが好きです。だから、聴こえる聴こえないに関係なく、多くの人と手話ができたら嬉しいです。

みなさんは、車いすバスケットを観たことがありますか。私は、間近で観たことがあります。とても激しいスポーツです。車いす同士がぶつかり合う時などは、あまりの激しさに目を覆いたくなります。健常者のバスケットとリングの高さは一緒なのに、車いすに座ったまま軽々とシュートを打ちます。その素晴らしさに、観ている方も非常に盛り上がります。

また、盲聾と呼ばれる、目が見えず、耳も聴こえない方たちがいます。どうやってコミュニケーションをとっているのかわかりますか。実は、その方法の一つに触手話があります。字の通り、手の感覚で手話を読み取ります。先程、手話は相手に集中しないと会話が成り立たないと言いましたが、触手話は触れ合わないで会話が成り立ちません。その分、より深く相手と気持ちを分かち合えるような気がします。友達と目を閉じて触手話をしてみたことがあります。とても難しく、一部しか言葉が通じませんでした。盲聾の方はすごいなあと思いました。私たちは、障がいがあるからこそ、相手とのコミュニケーションを特に大切にしているのです。けれども、困っているときは助けてください。話がうまく通じない時は、紙などに書いて見せてくれると助かります。

このように、どんな障がいをもっているの、本人の考え次第で楽しく生きることができるのです。今、便利な世の中になっていますが、障がいのある人もみんなと無理なく暮らせるようになるには、もう少し時間がかかる気がします。私は、多くの人とコミュニケーションをとり、色々な意見を聞きたいです。そして、みんなが幸せに暮らせる社会の一員になりたいです。私の将来の夢は助産師になることです。障がいをもった赤ちゃんが生まれても「よく頑張ったね」と笑顔で迎え入れることができる助産師になりたいです。私は、これからも自分の障がいを個性として、コミュニケーションを大切にしながら生活していきます。





# 「家庭の日」に関する作文・図画

特選

みんなでんち

広島市立翠町小学校

1年 亀岡昌矢

なつ休みに、かぞくでかがくじっけんのきょうしつにいきました。やさいやくだものにでんきがおとって、でんちのかわりになることがわかりました。でも、もっとおどろいたのは、ぼくの体もでんちだということです。お父さん、お母さん、お兄ちゃん、ぼくが手をつないではかると、ちゃんとでんきがとりました。

ぼくがでんちなら、小さいからすぐなくなります。しょっちゅうじゅうでんしないといけません。べんきょうでつかれると、でんちが少しへります。お父さんにしかられるといっきに<sup>ゼロ</sup>0になります。ごろごろすると、少し元気になります。

でも、それだけではまんたんにもどりません。

お母さんのごはんをたべて、お兄ちゃんに、あそんでもらって、お父さんにしらないことおしえてもらおうと、今より少し大きなでんちになります。

大きくなったり、小さくなったりするけど、ゆっくりでいいんだよといわれました。

ぼくのかぞくは、みんなでじゅうでんわけあいっこをしているみたいです。

けんかをしてみんなのでんちが少なくなると、おうちの中がへとへとにつかれているみたい。

じっけんのときのように、手をつないだら、すぐにみんなまんたんになれるのに。

そんなときぼくは、みんなにだっこしてもらいます。じゅうでんのしあいっこです。

みんなもぼくもすぐまんたんです。

ぼくが大きくなって、ぼくのでんちも大きくなったら、かぞくではたりなくて、お友だちにじゅうでんしてもらうかもしれません。そのかわり、ぼくがお父さんやお母さんやお兄ちゃんに、たくさんじゅうでんしてあげます。ぼくが大きくなるまでは、みんなたくさんだっこしてください。

## 特選

# 家族みんなの夏の思い出

東広島市立三ツ城小学校

4年 門 香 里

生き物大好き家族の私の家に、この夏、不思議な出来事が起こりました。夏休みに入ってすぐの7月の終わり、家の芝生にとてもかわいらしいお客さんがやって来ました。それは、芝生の葉に色と形もそっくりで、見分けがつかないくらいの小さな小さなバッタだったのです。

「バッタがおるよ。」

と言うと、お母さんが家からとび出して来て、

「ほんとじゃあ。かわいい……。」

と、うれしそうに言いました。2人でそおっと芝生をのぞきこみました。でも、なぜか、バッタはにげませんでした。

それから、私達家族とかわいらしいバッタとの楽しい毎日が始まりました。早起きでいつも庭の手入れをしてくれるお父さんは、

「今日もバッタ、おったよ。」

と、みんなに教えてくれます。動物好きでやさしいお母さんは、毎日、

「ずっとここにおってね。」

と、言いながら、バッタがびっくりしないようにそっと芝生に水をまきます。読書好きで物知りなお兄ちゃんは、

「これ、きっとショウリョウバッタよ。保ご色を使って芝生と同じ色になっとるんよ。」

と教えてくれます。私は出かける時も家に帰って来た時も、バッタに会えるのがうれしくていつでも芝生をさがします。まるで、かくれんぼをしているみたいです。あまりにもかわいらしいので、私は「バッタちゃん」と名前をつけました。近づくとしょっ角をピクピクさせ、おしりをビリビリふるわせるバッタちゃんに私の家族はみんなむ中になっていました。今日もバッタちゃん芝生にいるかなあと思うと、みんな家に帰るのが待ちどおしくなっていました。

こんな小さなバッタちゃんと楽しくらせる私の家族って何だかいいなあ…と、私はほっこりした気持ちになっていました。だれかがバッタちゃんを見つけたら、みんな大喜び。朝起きた時も、ごはんを食べる時も、

「バッタちゃん、おったよ。」

と教えてくれます。すると、みんなが今日見たバッタちゃんの様子をいろいろ話すようになりました。「バッタちゃん、おったよ。」と言うのが、いつの間にか、家族みんなの合言葉みたいになっていました。不思議なことに、それから、バッタちゃんはいつも庭の芝生のどこかで、私達みんなを待っているかのように、じっとしていました。

8月になったある日、芝生の上に白っぽいくしゃくしゃした皮のような物が落ちていました。お兄ちゃんが、

「だっ皮しとる。」

と言うと、お父さん、お母さんが、

「すごい。少し大きくなっとるよ。」

と教えてくれました。私は、バッタちゃんに小さなうすい羽みみたいな物が生えているのに気づきました。私達の家の庭で、バッタちゃんが成長しているんだと思うと、みんなうれしくて笑顔になっていました。バッタちゃんは、もう、私達の家族になっていました。

私は、家族っていいなあ。きっと私もバッタちゃんのように、みんなに大事に見守ってもらいながら、少しずつここまで大きくなったんだろうな…と思いました。心があったかい気持ちになっていました。

「バッタちゃん、私達のおうちに来てくれてありがとう。私、お父さんやお母さんやお兄ちゃんのこともっと大好きになったよ。」

この夏、私たち家族は、バッタちゃんからステキな思い出をもらいました。

## 特選

# ～生命の誕生～そして感謝

広島市立中広中学校

1年 栗栖 ころろ

私には9月で2歳になる妹がいます。私は4人兄弟で男・女・男・女の順です。長男は中3の15歳で長女が私13歳で次男は小5の10歳で次女が2歳になる妹です。

私の兄弟は長男以外は自宅出産で産まれました。弟が産まれた時私はまだ2歳だったのでその時のことは覚えていませんでした。ですが、妹が産まれた時私は小5の11歳のころでした。だからよく覚えています。

9月4日、日付が変わって間もない時、

「ピンポーン ピンポーン」

玄関のチャイムが鳴りました。私もなぜか自然とそろそろ産まれるんじゃないかと思いチャイムが鳴るころには、すでに目が覚めていました。そして玄関を開けると助産師の方が来ていました。

助産師の方が中に入ってくると、すぐに温かいお湯を準備してと言われてたり、タオルを用意してなどと色々と言われました。

すると、休むひまもなくお母さんが力んでいます。よく見てみると赤ちゃんの頭が見えてきました。私は思わず目を大きく見開きました。すぐそこに妹がいる、と思いお母さんに声をかけました。

「頑張って、お母さん。」

お母さんは、また力みました。痛そうな声とともに赤ちゃんが首のところまで出てきました。妹も必死に出てこようと頑張っていました。次の瞬間、赤ちゃんがこしのところまで出てきて、一気に足まで出てきました。その時、私は涙がどんどん溢れてきました。涙が止まらず私は本当に生命の誕生ってすごいんだなあと心からそう思えました。

お母さんを見ると、お母さんは赤ちゃんを胸にだいてうれし涙をながしていました。赤ちゃんも気持ちよさそうにほほえんでいました。

朝方になり、私はお母さんに聞きました。

「痛かった？」

するとお母さんは、

「そんなのもう忘れたよ。痛いって思っていたのが産まれてきた赤ちゃんの顔を見ると、うれしいって気持ちでいっぱいになるよ。」

と言っていました。

陣痛は言葉では表せられない程痛いと言われていています。そんなに痛い思いをして私のことを産んでくれたと思うと感謝の気持ちでいっぱいです。そして、自宅出産に立ち会わせてくれたという貴重な経験をさせてくれたお母さんに感謝です。今、妹を子育てしている母を見ると大変そうだなと思います。私の時もこんな風に頑張ってくれていたお母さんに感謝です。本当にお母さんに感謝しています。

感謝の言葉を母へ贈ります。

「お母さん、私を産んでくれてありがとう。」

## 入選

# おにいちゃんがおしえてくれただいじなこと

広島市立牛田小学校

1年 小林 大悟

ぼくは、9さいはなれたおにいちゃんがあります。みんなは、「けんかしないでしょ？」っていつているけど、ときどきおにいちゃんとけんかをします。さいごは、ぼくがなかされて、いつもくやしくてたままない。

そんなおにいちゃんがフィリピンへりゅうがくすることになった。しゅっぱつびがちかづいてくると、どんどんさみしくなってきた。

しゅっぱつのひになると、きちんとかえってくれるかしんぱいになって、くうこうでしがみついでしまいました。でもおにいちゃんはフィリピンにいつてしまった。

ぼくは、さみしくて、たまらなかつた。おうちも、いつもより、ひろくて、しずかになつた。

15日たつておにいちゃんがやつとかえつてきた。おにいちゃんぐるまのなかで、フィリピンのはなしをしてくれた。

フィリピンはにほんちがつて、まずしいひとがたくさんいるそうだ。ごはんがたべられなくて、きちんとしたいえもなくてべんきょうもしたくてもおかねがなくて、できない。

でも、おにいちゃんは、

「それでもみんなえがおだつたよ。かぞくがけんこうであること、それがいちばんのしあわせでそれがすべて。そのえがおが、かがやいて、わすれられないんだ。」と、ぼくにおしえてくれた。ぼくは、はじめてきいたことばかりだつた。とてもびっくりした。ぼくになにかできることがあつたらしたい。おにいちゃんにいつたら、

「だいごは、いまのこのばしょで、がんばつて、いっしょうけんめいいきていくことがだいじだよ。それがあかるくてへいわなみらいにつながつているから。」とおしえてくれた。

よくわかんないけど、まいにちがんばつていれば、わかるかな。



## 入選 家でいの日

東広島市立高屋西小学校

2年 川久保 蕾 実

わたしは、せんげつ、かぞくとひろしまのガラスこうぼうでいろいろなガラス作りを体けんしました。

わたしのお父さんは、しごとで大さかにすんでいます。いつもよるは、おそいので、まいあさでんわをかけてくれます。

「おはよう。」

と、いってくれるのでわたしも、元気に

「おはよう。」

と、いいます。そのあとに、きのうあったことや、きょうあることを話すと、うれしくなります。

1か月に、1ど会えるので、先月は、わたしが行きたかったガラスこうぼうに、つれて行ってもらいました。

ガラスこうぼうについたら、まずわたしが一ばん作りたかった、金魚ばちのジェルキャンドルの体けんに行きました。2しゅるいの金魚ばちの色から、わたしは青色、おねえちゃんも赤色をえらびました。そして、それに入れるビーズやガラスできているうみの生きもの、まわりにかざる石などをえらんで、1つずつピンセットでゆっくりと入れていきました。まわりにあたると、われてしまうので気をつけて、入れました。さいごに、ジェルのろうを入れてかんせいです。

ろうがさめるのをまつあいだ、つぎの体けんのマドラー作りに行きました。ガラスのぼうの中がくうどうになっていて、そこに、じぶんのえらんだビーズを入れていきます。入れおわったらガスバーナーで、はしのガラスをとかして、とじます。青い火にあてると、こげて黒くなるので火にあてないように気をつけて、くるくるまわしながらとじました。ジュースなどを作ったらまぜるのに、たくさんつかいたいとおもいました。

さいごに、ふきガラスの体けんにいきました。風りん作りは、むずかしいのでお父さんが体けんするのをよこで見ました。10しゅるいの色からわたしたちは、みどり色をえらびました。お父さんは、てつのぼうで、

「ふーふーふー。」

と、ふいて少しずつガラスをふくらましていきました。お父さんがふいているガラスは、青色をしていたのでおみせの人がまちがえたのかなと、おもいました。ガラスのそこにあなをあけて風りんのかんせいです。

きのう、ガラスこうぼうから、でき上がった風りんがとどきました。あけて見るときれいなみどり色の風りんが入っていました。風りんが

「ちりんちりん。」

となると、とおくにすんでいるお父さんといったことをおもいだします。

## 入選

# わたしのかぞく

熊野町立熊野第四小学校

2年 中野光姫

わたしのかぞくは、おにいちゃんたちと母と父です。

1ばん上のお兄ちゃんは、いじわるです。テレビを見てるときいつもいやなことを言うてくるからです。でも、家の手つだいやべんきょうをがんばっています。

2ばん目のお兄ちゃんは、やさしいです。わたしが、おかあさんにおこられてないでいたらなくさめてくれます。でもいっしょに学校に行くとき、すぐけんかになります。そのときは、きらいです。

おかあさんは、やさしいです。でも、おこるときは、むちゃくちゃこわいです。だれかがおこられると3人ともおこられます。とくに、1ばん上のお兄ちゃんがすぐおこられます。お母さんは、一どおこりだと、ずっときげんがわるいので、わたしは、おこられないように、しずかにしています。なのに、おにいちゃんたちは、ますますおこられるようなことをするので、お兄ちゃんたちのせいでおこられるのでやめてほしいです。

お父さんは、大すきです。

わたしが、すきなテレビを見たいとき、お父さんにみたいテレビがあってもわたしにみせてくれます。ほかに、おにいちゃんたちは、すぐにおこられていたけど、わたしには

「だめだよ。」

というだけでぜんぜんおこらないやさしいお父さんです。

だけど、わたしが4さいのときに、びょうきで、なくなりました。そのときは、かなしかったです。お父さんは、おしごとをがんばりすぎたんだとおもいます。

だから、わたしのかぞくは、あんまりがんばりすぎないようにしたほうがいいと思います。お兄ちゃんにいったら

「がんばれよ。」

とつっこまれました。

家ぞくででかけると、2ばん目のお兄ちゃんがいなくなります。お母さんがおこって、1ばん上のお兄ちゃんがさがしにいきます。

ごはんを食べるときもにぎやかです。いつも3人いっぺんにしゃべるので、それでもよくおこられます。

テレビをみる時も、ゲームをする時もいつもみんなしゃべっています。

おとうさんがいないのは、さみしいけど、わたしのかぞくは、いつも元気であかるいです。けんかもするけど4人でずっとなかよくくらしたいです。

## 入選

# おじいちゃんのスイカ

呉市立阿賀小学校

3年 實 下 桃 花

わたしのおじいちゃんはスイカを持っています。スイカを育てているのではなく、スイカを持っています。それも手で持っているのではなく、ヒミツの場所にかくして持っています。

それは、おなかの中です。おじいちゃんが立っていると分からないけど、ソファーにすわると、おなかがポコッと丸くなって、スイカがあらわれます。わたしが1年生のころ、おばあちゃんと、お母さまと、お姉ちゃんと3人でそのスイカをさわった時、ポンポンとおもしろい音がして、みんなで笑った事があります。おなかをさわられているのになぜかスイカの持ち主のおじいちゃんもニコニコ笑顔でした。そして、

「ほうか、おもしろいか。」

と言っていました。わたしはポンポンという音と、みんなの笑顔でもっと楽しくなったのをおぼえています。

おじいちゃんは仕事をしていて、土曜日も日曜日も夕方にならないと会えません。でもときどき仕事のとちゅうにわたしの家によって、おみやげをくれます。仕事のとちゅうなのでげんかんでおみやげのフルーツやお肉、わたしの好きなせんまいをうけとって、だっこをしてもらいます。げんかんなので、立ってだっこをしてもらう時は、おじいちゃんのスイカがかくれています。わたしはスイカがあっても、なくてもおじいちゃんにだっこしてもらいたかったので、

「だっこしてえ。」

と言って、おじいちゃんにとびつきます。その時もやっぱりおじいちゃんはニコニコの笑顔なのでわたしはうれしくなります。

でも実は、さいきんおじいちゃんのスイカが少し小さくなっている事に気がついてしまいました。バレエの帰りにおじいちゃんに会いに行くと、いつものようにばんごはんを食べて、お酒を飲んでソファーにすわってカープを見ているおじいちゃんがありました。ふくのおなかの所にしょうゆをこぼしたあともいつも通りでした。でも1ついつもとちがう事が。スイカの大きさが少しだけ、ほんの少しだけ小さくなっている気がしました。いつもお酒を飲んでいるので、少しへらしたのかな。と思いました。その方が体にいいので、スイカが小さくなるのはざんねんだけど、いつまでもおじいちゃんのやさしい笑顔を見たいのでスイカとはおわかれをしてもいいかな。と思います。

おじいちゃんのスイカがなくなる前に、スイカとおじいちゃんの間で苦しいだっこを何回もしてもらいたいです。おなかの所のしょうゆがこぼれていない時に。

## 入選

# わたしの家ぞく

東広島市立寺西小学校

3年 高尾 萌 栞

わたしは、6人家ぞくです。

お父さん、お母さん、お兄ちゃん、わたし、妹、弟です。お兄ちゃんは、小学6年生です。わたしは、小学3年生です。妹は、小学1年生です。弟は、年中さんです。

わたしの妹は、生まれたころから18トリソミーと言うびょうきでした。

わたしは、よく妹をだっこしていました。そのころのわたしは、小さかったので、だっこを上手にすることができませんでした。でも、お母さんがだっこのやり方を教えてくれたので上手にだっこができるようになりました。妹は、びょうきが原因でなくなっていました。わたしは、妹が天国で元気でくらしていると思います。

わたしの弟は車で遊ぶのが大好きです。とくに、カーズのトミカが大好きです。さい近は、きょうりゅうとさめのおもちゃで遊ぶようになりました。

わたしのお兄ちゃんは、水泳がとくいです。わたしもお兄ちゃんみたい水泳がとくいになりたいです。

わたしのお母さんは、お料理が上手です。わたしのたん生日には、お母さんがシフォンケーキを作ってくれます。プリンやパンも作ってくれます。お母さんが作ってくれた物は、とてもおいしいです。そして楽しい所にも連れてってくれます。わたしがまちがっている時は、やさしく教えてくれます。虫よけスプレーやじょきんスプレーの作り方も教えてくれました。わたしは大きくなったらお母さんにおれいをしたいです。

わたしのお父さんは、お仕事ねっしんなので、休日でもお客さんのお家で電気工事をします。少し前に、お父さんとおでかけした時は、とても楽しかったです。でも、お父さんは、そのおでかけに行く前に少しだけお仕事をしていました。たまには、家ぞくの時間も大切にしてほしいなと思います。

「休日なのに…。」

と、わたしが言うとお母さんが、

「お仕事しないと、お出かけもできないよ。」

と、言いました。

わたしは、たしかにと思いました。

これからも、お父さんにお仕事をがんばってもらいたいです。

お母さんには、これからもお家の家事をがんばってもらい、お兄ちゃんには、水泳をがんばってもらい、弟には、おもちゃのかたづけをがんばってもらいたいです。

一番のねがいは、妹が天国で元気にくらせることです。



## 入選 ぼくの妹

東広島市立東西条小学校

4年 前 永 蒼 登

ぼくの家族は、ぼくと両親と3つ下の妹がいます。

妹の名前は<sup>みはる</sup>深晴です。

深晴の名前は、深晴がお母さんのおなかにいる時、ぼくが、

「『はる』がつく名前がいい。」

と言ったので、両親が晴れの日みたいに気持ちの良い毎日がずっと続くように深晴という名前にしました。ぼくの意見が妹の名前の一部になったので、かわいがってやろうと思いました。

ぼくは絵本を読んであげたり、泣いている時は話しかけてあげたりしました。すると、深晴はにこっとわらってくれて、とてもかわいかったです。ぼくのことを「あおちゃん」と何度も何度もよんでくれて、とてもなかのよい兄弟でした。

けれど、深晴が年長くらいになるとちえがついて、ぼくに文くを言ったり、ぼくのまねばかりすることになって、毎日けんかをするようになりました。けんかの原いんはいつもくだらないことですが、深晴がむきになって言うので、ぼくも負けたくなくて、つい大きな声で言い返してしまいます。お父さんとお母さんは、きっと悲しんでいると思います。自分でも、できるだけけんかをしないようにがまんしているのに、どうしてもがまんのげん界に達してけんかになってしまいます。

でも、ぼくが熱を出している時は、手紙を書িয়েくれたり、ぼくのさがし物をいつも一番先に見つけてくれたり、ぼくの絵を見ていつもすごいねと言ってくれたり、おもしろいテレビをいっしょに見て2人で大わらいする時は最高の妹です。

この前、家族で水族館に行った時も、深晴がいたので楽しさも2倍でした。もし兄弟がいなかったら、きっとどこに行っても楽しくないと思います。深晴がいると、大したことのないこともすごく楽しくなったりします。

深晴がお母さんにおこられている時、ちょっといすぎだなあと思って、お母さんに、

「それはいいすぎでしょ。」

とむ意しきに言っていたこともあります。

ぼくは、深晴のことがきらいな時がいっぱいあるけれど、すきなときもあるんだなあと思いました。

これからは、けんかをする原いんは、深晴だけじゃなくて、ぼくも少ししているかもしれないから、がまんだけじゃなく、けんかにならない方法も考えていこうと行います。

そして、深晴の良いところや、今でもかわいい所を見つけて、なかよくしていこうと思います。

## 入選

# 野菜作りと家族

東広島市立下黒瀬小学校

5年 小田 創 太

ぼくの家は、畑がある。そこで、野菜作りを楽しんでいる。

ぼくの家族は、6人家族で、父さんと、母さんと、姉ちゃんと、ぼくと、じいちゃんとおばあちゃんがいる。それから犬のラッキーがいる。

畑をたがやす時、これは、父さんと、ぼくの2人でやっている。ぼくは、肥料などいろいろなものをまいている。父さんは、機械で畑をたがやしている。たまに交たいをするけど機械をカーブさせるときに重くてうまく曲がらない。とてもむずかしい。でも父さんがやり方を教えてくれてできるようになった。

次にうね作り。たがやして、10日ぐらいたったら、またたがやして、うねをつくる。ぼくが一番、苦手なことだ。これは、父さんとぼくが、やっている。母さんや、じいちゃんや、姉ちゃんもたまに手伝ってくれる。くわを使って、人のおり道を作る。こしを曲げてやる作業なので、しんどいけど、みんなが声をかけ合っているから、やる気が出てきてだんだん楽しくなってくる。そして、こしの痛みもわすれてくる。

そして、ついに、植えていく。これは、みんなでやる。でもぼくは、手がよごれるからあまり好きではない。ぼくは、毎年、

「あー、早く野菜ができてほしいな〜。」

と、言って、しゅうかくを楽しみにしている。

水やりは、毎日やる。これは、ぼくの仕事。たまに、姉ちゃんや、母さんが手伝ってくれて、とてもありがたい。

そして、ばあちゃんが草ぬきをしてくれる。そのかわり、ぼくは、トマトのわき芽をとっている。長い草が生えたら、じいちゃんが草かり機でかってくれる。ぼくも、たまに、草ぬきを手伝う。

そして、じいちゃんといっしょに、カラスよけのつり糸を張ったり、スイカの下に、わらをしいたりする。たまに野菜作りのプロの近所の人に、手入れの仕方を教えてもらうこともある。

7月が始まったばかりのころついにその時がきた。ぼくが一番好きなしゅうかくの時期。おいしいかどうか考えながらとった。家族みんなでおいしいねを話しながら食べた。

野菜作りは、ぼくたち家族にとって欠かせないことで、家族のきずなを深めるものだと思う。野菜作りによって、家族の笑顔や家族との会話が増える。こううん機の動かし方や、糸の張り方を教えてくれた父さんやじいちゃんのごさや、地道に草ぬきをするばあちゃんのえらさや、いそがしいのに手伝ってくれる母さんや姉ちゃんのやさしさが分かった。ぼくたち家族は、野菜と共に成長していったんだな、と思った。これからも、家族と共にいろいろな野菜を育てていきたいです。

## 入選

# 笑顔が生まれるもちマヨトースト

東広島市立寺西小学校

6年 小林 未来

「もちマヨトースト作ろうかな。」

兄のこの一言で私と弟は、とてもうきうきしてきます。

「今日は何色のおもちを使うの？何枚のせてくれる？」

この日だけの特別な会話が家の中をとびかいます。

もちマヨトーストは、兄が考えた料理です。おもちをうすく切って、パンにのせ、マヨネーズをかけて、トースターで焼けば完成です。このもちマヨトーストに使っているおもちにも楽しい思い出がこもっています。

その思い出は、おばあちゃんやいとこ達といっしょにおもち作りをした事です。

「おいしくなーれっておもいながら作ると、おもちがとてもおいしくなるよ。」

そうおばあちゃんが教えてくれました。なので、心の中で、

「おいしくなーれ、おいしくなーれ。」

と思いつながりいっしょけん命作りしました。ピンク、緑、白、3色のキレイなおもちができた時、手作りっていいなと思いました。

そんな思い出がこもった手作りおもちを、兄に切ってもらい、私と弟で、後の工程をします。

「早くできないかな。」

「早く食べたいな。」

トースターの中でぷっくりしていくおもちを見ると、そんな気持ちがこみあげてきます。春は桜をイメージしたピンクのおもちを、夏は若葉をイメージした緑のおもちをと、季節によって、おもちの色がちがうので、色を使いわけている兄はすごいと思いました。

おもちのこんがりしたにおいといっしょにでてきたもちマヨトーストを見て、

「早く食べよ。早く食べよ。」

と私はこうふんしてしまいました。

お皿にトーストをのせてもらって、みんなで食べ始めると、みんなの顔が笑顔になりました。

「やっぱりおいしいね、モチマヨトースト。」

「また今度食べようよ。」

モチマヨトーストを食べて、生まれたのは笑顔だけでなく、家族とのコミュニケーションも、生まれました。

私はもちマヨトーストは、みんなを笑顔にしてくれる料理だと思います。なので、私の中でのもちマヨトーストの名前は、「笑顔が生まれるもちマヨトースト」です。

私たち家族は、父や母が仕事に行く時、私が学校に行く時は必ず家族であく手をします。そして姿が見えなくなるまで見送ります。

この動作は、私が物心ついた頃からやっていて、わが家の暗もくのルールとなっています。自然とやっていたことなのですが、最近ふと「いつから始まったのかなあ」と疑問に思って、父と母に理由を聞いてみる事にしました。

姿が見えなくなるまで見送るという行為は父が子どもの頃からやっていたと教えてもらいました。前日に、口をききたくないほどのけんかをしたとしても、見送る時は絶対笑顔で

「行ってらっしゃい。」

「行ってきます。」

と言って出かけたそうです。口もききたくないほどのけんかをした翌日、よく笑顔になれるなど私は不思議でたまりませんでした。でも、それにはちゃんとした理由があったのです。

「人は数分後、何が起こるかわからない。もしも、お互い無言のままムスツとして出かけ、元気で無事に帰って来られない状態になったら……ああ、あの時ちゃんと話していればよかったって後かいいことになると思う。だからどんなことがあっても、朝は気持ち良くあいさつをして見送らなきゃいけないんだよ。」

と父が話してくれました。その話を聞いて私は、ようやく納得しました。あたりまえと思える日常が、急にそうではなくなる事もあります。「あの時、ちゃんとしていれば」と後かいはしたくありません。

このルールは、父と母が結婚してからも続けられました。父と母は、笑顔で姿が見えなくなるまで見送るだけじゃなく、出かける前にあく手もするようになったそうです。

お互いに手をにぎって声をかけ合うことで、元気も出るし、今日も1日頑張ろうって思えるからだそうです。

理由も知らず、あたり前のようにやってきた「行ってきます。」「行ってらっしゃい。」のあく手は、深い意味があるんだなと実感しました。

今まで前日、父や母に怒られ、翌日も気分が重くて嫌々あく手をして、ムスツとして登校した日もあります。それでも父や母は、私の姿が見えなくなるまで、手をふって見送ってくれていました。今思えば、私は悪い事をしたなあと反省しました。これからは、笑顔で元気よくあいさつし、見送り、見送られたいと思います。

そしてこのすてきな我が家のルールは、私が結婚してからも続けていきたい、つなげていきたいなと思いました。

## 入選

# ぼくを支えてくれる家族

三次市立八次中学校

1年 田原 匠

ぼくの父はぼくが2歳7ヶ月の時に交通事故で亡くなりました。その時ぼくは幼かったので、お葬式の事は全く覚えていないし、父との思い出はみんなの話を聞いて、自分の中で想像したものなのか、それとも自分の記憶なのかがあいまいになっています。

保育所のころは友達に

「何でお父さんおらのん。」

と聞かれることも多く、その度に悲しい気持ちになっていました。そんなぼくに母は、

「お父さんは目に見えないけどいつも匠を見守ってくれてるよ。だから今も3人家族だよ。」

と言って、寝る前にはその日にあったことを母と2人で父の遺影に報告していました。今それはしていないけど、入学や卒業といった特別な出来事があったときは、墓前に報告しに行っています。

祖父母もぼくや母を支えてくれています。ぼくが病気で寝込んでしまった時に仕事の母に代わって看病してくれたり、農業を営んでいるので、芋ほりや野菜の収穫、トラクターに乗せてもらい田起こしなどたくさんの農業体験をさせてくれました。これらの体験は学校の授業で役立てることができ感謝しています。

他にも父の同僚や友人の方々もぼく達のことを気にかけて訪ねてくださり、父の思い出話を聞かせてくれます。

そんな人達のおかげでひとり親世帯ということでの寂しさを感じることはあまりありませんでした。

今年の3月、生まれてから小学校卒業まで住んでいた三和から八次に引っ越してきました。

「八次中学校でサッカーをしたい。」

という希望を母が叶えてくれました。祖父母も応援してくれて、引っ越しや家の掃除などを手伝ってくれました。母も祖父母もぼくの願いを聞いてくれて、応援してくれているので、

「あの時願いを聞いてよかった。」

と思ってもらえるように頑張りたいです。

ぼくはこれまで多くの人に支えられてここまで成長することができました。今はまだ助けられてばかりですが、自分でできることはできる限りして周りへの負担をへらしたいです。そして将来、家族を支えられる様になりたいと思っています。

東広島市立中央中学校

1年 坂本 健太

父の仕事は転勤が伴い、僕は今までに2回転校をしました。1度目は小学校2年生の終わりで、広島から県外へ家族みんなで引っ越しました。急な事だったのでどうすればいいのかわからなくなりました。仲の良かった友達の事やいつも遊んでくれた祖父母と分かれるのをさみしく思いました。出来たらこのまま広島にいたいと言う気持ちが強かったです。今思うと僕だけでなく家族も僕と同じように不安や寂しい気持ちだったと思います。

そんな時に祖母が僕に声をかけてくれました。

「家族は一緒にいるのが一番なんよ。」

僕はまだ幼くて、その言葉の意味がよくわかりませんでした。

引っ越してから家族4人での新しい生活が始まりました。弟は幼稚園に通っていたので転園をしました。誰とでもすぐに仲良くなれる性格で、新しい幼稚園ですぐに友達が出来て楽しく通っている様子でした。対象的に僕はなかなか新しい学校に慣れず、心細い毎日を過ごしていました。そんな状態だったので学校の事や生活態度で注意されると気持ちがいっぱいになって、

「引っ越しなんかするんじゃないか。」

「広島に帰りたい。」

と家族に気持ちをぶつけていました。そんな僕に父と母はとても心を痛めていたようです。そんな事があった後には気分転換にドライブやお出かけに連れて行ってくれました。海をながめたり星を見たり、映画や旅行にも、行きました。そうすると自然と心が落ち着いて家族との時間が、不安や嫌な事を忘れさせてくれました。帰る時には誰からともなく、

「明日からまた頑張ろうね。」

と言って気持ちが元気になりました。

引っ越してから半年経った頃、仲良しの友達が出来て少しずつ新しい生活が楽しくなって行きました。そんな僕の様子を家族や広島にいる祖父母も喜んでくれました。喜んでくれる様子に僕も嬉しくなりました。

時々学校の事で辛い事があると母が僕に、

「辛い時には自分だけでなくお父さんもお母さんも弟も頑張っていることを思い出してね。一緒にいない時も心はつながっているよ。」

と言ってはげましてくれます。その言葉を思い出して辛い時には頑張ります。僕は引越しの時に祖母が言った言葉の意味がようやくわかりました。家族は一緒にいるのが一番大切。それは辛い時にははげまし、支え合い、嬉しい時には喜んでくれる家族の存在が近くにある事が幸せなんだと気付きました。僕を支えてくれる家族に感謝して毎日生活している。僕も家族の支えになれるようにももっとも家族の事を考えて生活していきたいです。

僕にとって家族は常に一番の理解者で大切な存在です。

広島学院中学校

1年 三原大智

僕には大好きな家族の他に、少し離れたところに住んでいる祖父母がいます。祖父母は元気に暮らしていますが、祖父から心臓の病気があると知らされたことがありました。

僕は、幼い頃から読書が好きで、特に伝記ものの、野口英世の生涯を描いた本を夢中で読んだことがあります。やけどを負い、不自由な体になっても自分の夢を追い続け、医師であり研究者という道にたどりついたその生き様に深く感銘を受けました。そして、将来は僕も人を助け、喜びをもたらすことが出来る医師になりたいと思うようになりました。

そんな夢を持ち始めた頃に、祖父の病気の事を聞いたのです。祖父は、退職後も地域のために町内や福祉の仕事に携わり、今でも頑張っている自慢の祖父です。その姿を見て育った僕は、祖父を尊敬するようになりました。落ち込んだ時には優しい言葉をかけてくれ、中学受験前には、夜遅く寒い中、毎日塾まで迎えに来てくれ、全力で応援してくれました。夢にまで見た中学校に合格した時は、僕以上に涙を流して喜んでくれたのです。

僕が将来医師になりたいという夢を話す時、祖父はいつも嬉しそうな顔で聞いてくれ、「それじゃあ、大ちゃんが医師になるまで、じいちゃんも長生きするけえ、頑張れよ。」と言ってくれます。その時の嬉しそうな顔を忘れることは出来ません。

祖父は今年の5月に冠動脈ステント留置きの手術を受けました。4月頃より胸がしめつけられるような感じがしたので、CTをとりカテーテル検査をした結果、心臓の一番重要な働きをする冠動脈が極端にせまくなっており、その細さに先生方も随分と驚かれたそうです。この手術をしなければ、命の保証がないということですからすぐに取りかかったのですが、他の細くなっている血管はそのままにしてあるそうです。だから僕は、一生懸命勉強をして将来医師になれば、まだ治せていない血管を治してあげたいのです。

僕は生まれた時から家族や祖父母に支えられて育ってきました。嬉しい時、悲しい時、苦しい時も一緒に過ごしてきました。僕は家族や祖父母にとっても感謝しています。そして、そんな家族や祖父母に僕は恩返しをしたいと思っています。だから、将来必ずや医師となり、笑顔を与えたいです。それが僕の家族に対する思いです。

東広島市立磯松中学校

1年 梶山 優斗

「ただいま。」

と、玄関に入ると夕飯のいい匂い。お母さんと弟の元気な声と元気に泳ぐ金魚、そして僕を見上げる亀。そんな毎日が当たり前だと僕は思っていました。

そんなある日、僕のおじいちゃんが亡くなりました。と言っても僕が産まれる前からおじいちゃん入院していて、小さい頃に数回会っただけであまり覚えていませんでした。

家族皆で葬式にかけつけ、葬儀場に入ったとたんの、とても重い空気に僕の笑顔は消えました。

「おじいちゃんにお別れをしようね。」

と言うお母さんの声に、僕はたじろいでしまいました。なぜなら僕は亡くなった人を見たことがなかったのです。僕はおそろおそろおじいちゃんの顔をのぞきこみました。

「寝てるのかなあ。」

おじいちゃんの白くてきれいな顔を見て眠ってるようにしか見えませんでした。

その夜、ベッドに入った僕は生まれて初めて死について考えました。でも、どんなに考えても死ぬということがどういうことなのか分かりませんでした。その代わり生まれるということについて考えてみました。僕には4才下の弟がいます。お母さんと弟が病院から帰ってきて、家族が1人増えた日のことを思い出しました。生まれただけの弟はとてもかわいくて、僕は見ているだけでも笑顔だった気がします。産まれるということは希望に満ちあふれ、周りの人たちを幸せにすることです。ということは……。

僕はハッとしました。死ぬということは全てにおいて絶望的なことなのではないのだろうか。

次の日、僕はおじさんに聞いてみました。

「死ぬって何もかも終わっちゃうってこと。」

おじさんは遠い目をして言いました。

「そうじゃないと思うよ。命はいつか尽きてしまうものだけど、人の想いは残った人の心に生き続けるんじゃないかなあ。その人と会えなくなるのはとてもさびしいことだけど、その人の愛情や口ぐせや仕草や大切な言葉、いわゆるその人の生きた証として、どんなに世代が変わっても、人としての大切な道徳は受け継がれていくと思うよ。」

僕は、ちょっと照れ笑いをしました。

永遠というとても長い長い時間の中で、僕の生きた時間はほんのまばたきをするほど一瞬だけど、精一杯生きることが大切なのではないかと感じた。

僕は僕の大切な人達の心に残る生き方をして、僕の想いを永久に残せるよう頑張りたいと思いました。

マンガを何冊か渡すと、弟はなにも言わずに、自分の病室に戻って行きました。熱があるらしく、面会コーナーに来て、5分も経たずに、あざだらけの足をひきずるようにして、父と母と一緒に、ゆっくりと病室に戻る弟の背中を見て、私は泣きそうになりました。

5月の終わり頃、私の弟は友達の自転車で横断歩道を渡っている時に、よそ見をして運転していた車にひかれました。弟の小学校6年生にしては小さな体が15m先のコンビニの駐車場までとばされたそうです。手足の骨は折れていなかったものの、頭蓋骨は、縦にパッキリわれました。父からこの話を聞いた時、私はとても驚きました。頭が一瞬、真っ白になり、え？弟が？いきなりすぎる、弟の事故の話で私は涙すら出てきませんでした。

それから2日後のことです。妹が、祖父母と一緒に弟のお見まいに行かない？と誘ってきたのは、私も弟の今の容態が気になっていたので、二つ返事で承諾しました。

病院の駐車場につくと、父の青い車が目に止まりました。その時私は、ああ、父さんも弟が心配で仕事を早く終わらせて来たんだと、変に安心してしまいました。

弟は小児科に入院しており、小児科には、普通、立入禁止なので、弟の病室には行けず、弟とは面会コーナーで会うことになりました。しばらくすると、父と母と一緒に弟が小児科と面会コーナーを隔てる扉を開けてやって来ました。父と母は、消毒や殺菌をしており、弟の病室に入ることを許可されていました。頭は痛くない？学校はいつから行けそう？聞きたいことは山ほどあったのに、弟のあざだらけの足や、点滴の針が刺さったうでを目の前にすると、私は何も言えなくなってしまいました。

さらに2日後、弟は無事退院しました。まだまだ本調子ではないものの、病院で見た時よりも、だいぶ元気になっていました。しかし、まだ学校には行けないらしく、2、3日学校を休んでいました。しかし、数週間もすると、弟は学校のプールで泳げるようになるほど、回復していきました。そんな弟を見て、私は少し前の自分と今の自分が変わっていることに気づきました。少し前の自分は、家族の事があまり好きではなく、むしろ嫌っていました。

「今日のご飯は何がいい？」

「服はもうちょっとかわいいのが良いんじゃない？」

私にいちいちそのようなことを言うてくる、父も母も弟も妹も私は嫌いでした。弟が入院していた4、5日間母は弟のために病院にね泊まりしていました。私は、母と弟がいないのを、少しだけ喜んでいました。しかし、それは最初のうちだけでした。

しばらくすると、私は家がいつもより広い事に気づきました。母さんと弟がいないからか。そう気づいた瞬間、いきなり私の胸に「さびしい」という気持ちがこみあげてきました。早く帰ってこないかな。日がたつごとに私はだんだん強くそう思うようになりました。

弟が退院して、今日まで続いている「あたりまえの日。」私は、弟が入院していたあの4、5日間私は、「あたりまえが一番大事。」「家族全員そろそろ事が一番の幸せ」そう気づきました。

少し前の自分と今の自分が変わったところ。それは、そう思える心を持ち、家族を少しだけだけ、好きになったところだと思う。



## 入選 いのち

呉市立郷原中学校

2年 中 岡 義 博

---

夏休み、祖父を訪ねると祖父は食事の最中だった。おなかから出た管に、点滴のようにぶら下げられた袋から茶色い液体が流し込まれている。

「これ、おいしいのかな。」

そう少し寂しそうに言う母を、祖父は見ることもない。

祖父が「胃ろう」になったのはもう2年以上前のことだ。脳こうそくの発症から認知症がひどくなり、話すこと、考えること、人としてできるのがあたりまえだったさまざまなことができなくなり、最後に食べることもできなくなった。でも「胃ろう」では満足に栄養がとれないため、祖父はやせ続け、足は人とは思えないくらいほど細くなり、ただ眠ることしかできなくなっていた。そんな祖父を見て母は、

「胃ろうの選択をしたことが正しかったのか今でもわからない。お父さんをただ苦しめているだけなのかもしれない。」

と言う。

僕は毎日起きて、顔を洗い、食事をして、着替えて学校へ行く。考え、話し、笑い、歩き、走る。それがどれだけ幸せなことか、祖父を見ていてわかる。祖父にはもう脳の働きがほとんどないのだという。音を感じることはできても、音の意味を理解しない。目に映るものは見えても、それが何であるかはわからない。できるのは、ベッドで眠るだけだ。祖父は今のこの姿を望んでいるのだろうか。幸せなのだろうか。はがゆい思いが沸き上がるけれど、母も祖母も結論が出せなかったように、僕にもこの問題は重すぎて、答えを導き出すことができない。

「いのち」の重み、「いのち」の大切さ。人としての在り方の難しさ。言葉だけではなくて、祖父は「いのち」の持つ苦しみや悲しさ、それを含めた重みを教えてくれた。僕は今でも祖父が幸せなのかどうかはわからない。でも祖父の「いのち」のある限り、その重みの辛さに向き合っていくことが、今僕にできる人としてできる在り方だと心から思っている。

## 入選

# 僕とおばあちゃん

三原市立久井中学校

2年 門田雅斗

ぼくは、現在13歳、中学2年生です。ぼくが小さいころ、おばあちゃんはとても元気で明るく料理が得意でした。

毎年、誕生日になると野菜ドーナツを作ってくれていて、そのドーナツはどこで買った物よりもおいしくて、なにより量がとても多かったことを覚えています。

いつから、野菜ドーナツが誕生日パーティーから消えたかは覚えていません。しかし、ぼくが成長し、大きくなって、いろいろなことが分かっていくにつれて、おばあちゃんは小さくなり、弱々しくなっていました。

普段は、元気そうにベッドにいますがとつぜん変なことをしてしまったり、少し前のことを忘れてしまったり…

そんなおばあちゃんを見ていると、しかたないと分かっていてもイライラしてしまったり、何の気なしにさけてしまったりしていました。

おばあちゃんは、よく「大きくなったねえ」と、ぼくに言ってくれます。

ほんらいなら、ぼくの成長を喜んでくれる言葉で、本人には何の悪意もないのですが、それをすごいひんどで言ってくるのです。たぶん、前に言ったのを忘れてるのだと思います。でも、これを聞くたびに、またか…そりゃあふつうに大きくなるよと思ってしまっている自分がいるのです。言われ方が小さい子供みたいだからよけいイライラしてしまうのかもしれませんが。おばあちゃんは成長しているからうれしくて言っているのだから、自分もすなおに喜ばばいいのに…

夏休みに入ったある日のこと、おばあちゃんがあまり反応しません。いつも以上におかしいのです。お母さんとお父さんが病院に行って調べてみてもらったところ、熱中症で体が弱ってしまっていたそうです。命の心配はなかったようですが、おばあちゃんは入院することになりました。

おばあちゃんのいなくなった家は、いつもとちがう感じがしました。いつも、おばあちゃんが横になっているベッドは空っぽで、食事の時もおばあちゃんはいません。

毎晩、おやすみなさいと言ってくれていたおばあちゃん、きちんとした返事はしていなかったけど、いざそれがなくなってみると、いわかんがあり、少し変な気がします。

おばあちゃんが入院して、しばらくたちましたが夏休みはいそがしく、まだ会いに行けてません。でも、それは単にいそがしいだけではなく、弱ってしまったおばあちゃんを見るのがこわいからも心の中のどこかにあるのかもしれませんが。

たぶん、もう野菜ドーナツなどは作れないでしょう。残念だけど人は年とともに弱ってしまい、それはどうしようもないことです。

だけど、どんなに弱ってしまっても、たとえ野菜ドーナツが作れなくても、たとえおかしくなっても、その人は大好きだったおばあちゃんなのだから。

これから年月が過ぎると、さらに自分がおばあちゃんより大きくなっていくと思うけどそんな時は、おばあちゃんにイライラするのではなく、今まで色々なことをしてくれた分を、こんどは自分が返すチャンスだと思って支えてあげたり、助けてあげたりしようと思っています。おばあちゃんのためにも、ぼくのためにも。

いつからだろう。中学校へ入学してから、どれくらいの間は言えたのだろう。私は最近家族に、「行って来ます」と言えない。

私達家族は、4人家族で父と母、兄と私で住んでいる。私は家族といると、安心できるし、学校から帰ってきて話をすることが楽しかった。そんな日々が少しなつかしい。今ではその時の気持ちが分からなくなっていっている気がする。

家族との間に溝ができはじめたのは、中学校へ入学して数ヵ月たった頃だった。私は部活や勉強が忙しく、睡眠時間も少なくなっていく、イライラする日が増えていった。そのため、親の気遣いも少しうっとうしく感じてしまうようになってしまった。心のどこかでは申し分けない気持ちや、感謝の気持ちはあるのだが、やはり日々のストレスやいら立ちが勝ってしまい、冷たい態度をとってしまう。そんな時間がたつにつれ、良い気持ちで家族と接することができない自分が嫌になった。このままでは、大切な家族をもっと傷付けることになる、今まで仲の良かった素晴らしい関係が崩れてしまう。私はこわかった。それだけは、どうしても防ぎたかった。そう考えるようになってから、私の中で家族関係をつなぐため一番大事だと思っていたあいさつ、「行って来ます」が言えなくなった。

ある日の朝。私はいつものように、見送ってくれる家族を無視して、自転車に乗った。私が「行って来ます」と言わなくても必ず、「行ってらっしゃい」と言ってくれる家族。その日はなぜか、どんな顔をして言ってくれてるのだろう。ふとそう思い少し顔を見てみた。なんとも言えない表情だった。笑顔なのだけれど、悲しそうな辛そうな。私はすぐ目をそらして学校へ向かった。私はその日1日、とても胸が苦しかった。家族を傷付けないためと思っていたことが、逆に家族を苦しめていたのだと気付いた。大切な人達を辛い目に合わせてしまった。申し分けない気持ちでいっぱいだった。

次の日、私はいつものように自転車に乗った。そして、

「…行ってきます。」

小さな声ではあったが、やっと言えた。その時の皆の顔は本当に嬉しそうだった。私も、皆の笑顔が心から嬉しかった。

家族とはかけがえのないもので、言葉では現しきれないほど大切なものだ。家族は、とても強い味方なのだ。心から信頼でき、本当に一緒にいて幸せを感じる存在。そんな家族をもっと大切にしていきたい。そして、私が皆を笑顔にしていきたい。

いつも通り朝は来る。すがすがしい朝。私は自転車に乗る。いつか最高の笑顔を大好きな家族にむけて言いたい。

「行って来ます。」

## 入選

# あったかい夏

呉市立吉浦中学校

3年 大宮 孝貴

中3の夏、僕は漏斗胸の手術を受けることになりました。入院期間は1週間から2週間で退院が早くなるのも遅くなるのも自分次第だと言われていました。僕は手術は初めてで、どんなに痛いか想像できませんでしたが、体力に自信もあり痛みには強いので自分では1週間もあれば十分じゃないかと思っていました。

手術の日、僕は全身麻酔で眠っていたので手術中のことは何も覚えていませんが、だんだん目が覚めてきた時、胸に今まで感じたことのない痛みを感じました。

しかし本当の痛みは麻酔の切れた翌日からでした。息をするのも痛くて声も出せず、術後の熱で汗をかき寝たきりで背中じゅうにあせもができて、かゆくて、でも動けなくてイライラしました。そんな時そばにいる母に訴えるのですが、痛みやかゆみを分かってもらえないもどかしさでつい母に当たってしまう、というようなことを繰り返していました。

数日後、退院予定と思っていた日ともうすぐっていうのに、一向に痛みも軽減せず食べる事も座る事さえも出さない自分に焦りが出てイライラはピークにきていました。そんな時、母が看護師さんに「お母さんは朝早くから夜遅くまでいらっしゃって大変ですね。」と言われているのを聞いてハッとしました。確かに周りを見渡すと付き添いの人はおらず、1日に一度様子を見に来てすぐに帰るといのがほとんどでした。もともと母はぼくの為に入院中仕事を休み泊まり込みで付き添う予定だったのですが、部屋の都合でそれが出来ないとのことで、電車とバスを乗り継いで朝8時には来てくれ消灯の夜9時までいてくれました。おかげで痛い時かゆい時のどが渴いた時、何をする時でも母はいつもそばにいてくれ僕の手助けをしてくれました。僕はそれが当たり前だと思っていたのです。僕は少し甘えすぎているのかもしれないと思いました。

それからは、なるべく自分で何でもやってみようと努力しました。最初は何をやるにも痛くて怖がっていたのですが、少しずつ自分で出来る事が増えていき、あっという間に座る事も立つ事もできるようになりました。そんなあまりの進展の早さに看護師さん達もびっくりしていました。そして予定通りちょうど1週間で退院させてもらえることになりました。

退院の日、1週間ぶりの夏の太陽を浴びて僕はとても清々しく感じました。

家に着いて玄関を開けた時、いつもと変わらない僕の家と、いつもと変わらない家族がそこにいることにやっぱり家が一番いいなと思いました。

本当は蒸し暑いはずなのに、僕にはとってもあったかく感じた1日でした。

## 入選

# いつもと違った夏休み

呉市立両城中学校

3年 久田 翔也

「あつい！」

今年の夏は猛暑だ。

こんなに暑い夏休みなのに僕たち家族は、海やプールといった夏のレジャーになかなか行けなかった。

というのも、父が椎間板ヘルニアになってしまったからだ。椎間板ヘルニアとは、飛びだした椎間板の一部が付近にある神経を圧迫し、腰や足に激しい痛みやしびれなどの症状を起こす病気である。

体を動かすことが大好きで、子供と同じ目線でいつも本気で遊ぶ父だけにこの夏は本当に残念そうだった。

母はいつも僕たちが遊んでいるのを、日陰から見ているのが定番なのだが、今年は違った。父が母のように荷物の番をし、母が僕たちと遊んでいた。弟たちがいるから遊ばざるをえなかったのだ。

家族での夏休みの思い出が何もないというのはさみしいだろうという父の意見で、遊園地に行くことになった。

先に説明したように父はヘルニアにより、自分で歩くのも立ち上がるのもままならなかったので、やむをえず車イスをかりることになった。暑い中車イスに座り、ただただ僕たちを見ている父が、なんだか小さく見えた。

やはり僕の父は、子供と同じように大はしゃぎして、大笑いして、何でも本気の父がいいと思った。

2人の弟はそんなことはおかまいなしに、同じ乗り物に何度も乗り、係の人を苦笑いさせていた。父が動けないぶん苦勞していたのはもちろん母だった。車イスを押し弟たちの写真をとり、いつも日傘をさし後ろからのんびりついてくる母なのに、汗だくになっていた。でも楽しそうにしている僕たちを見て、笑顔で手をふっていた。

いつもは先頭に立って何でもする父が、母なしでは何もできない。不思議な感じがした。弟2人もいつもよりわがままを言わないし、僕も色々手伝わないと思って思った。

「家族っていいな。」と僕は1人こっそり思っていた。

楽しいことも、つらいこともわけ合い、力を合わせる。ふだんならめんどくさくて、やらないことも、てれくさくて無視したふりするとも、父の腰のおかげで素直になれた気がする。

しかし、やっぱり本気で遊ぶ父の姿を来年は見たいと思った。

## 入選

# かけがえのない家族

三次市立布野中学校

3年 下野段 麗華

「なんで、この家に生まれてきたんよ。」

こんなひどい言葉を家族に向かって言ったことはありませんか。・・・私があります。そして言った後に必ず後悔してしまいます。私はいつも素直になれなくて、つい暴言をはいてしまい、その後「ああ、なんで素直になれないんだろう・・・。」と情けない気持ちになります。

本当は家族に伝えたいことが2つあります。作文という形でなら、伝えられるかもしれません。

1つめは、「さびしい」ということです。私は祖父母に育てられています。両親が離婚して父親にひきとられました。しかし事情があつて父とは一緒の家に住んでいません。父とはお正月には一緒に過ごします。夏休みや冬休み、春休みなどに一緒に旅行などに行くこともあります。体育祭など学校の行事にも会いにきてくれます。けれども、やはりもっと一緒に過ごせたら、と思っています。家では、1人で過ごす時間が多くて、家族とはあまりコミュニケーションをとっていません。それで孤独な時間を過ごし、さびしい気持ちがいつもつきまとっています。

2つ目は感謝の気持ちです。学校への送り迎えや、食事の世話など数え上げたらきりがありません。私が生徒会執行部の役員で頑張っているのも、祖母のアドバイスのおかげだと思っています。でも素直になれずについ、「あっち行ってや！」などときつく言ってしまいます。本当は、「いつも迷惑かけてごめんね。そしていつもありがとう。」と伝えたいと思っています。照れくさくて、今はとても言えそうにはありませんが、きちんと伝えたいと思います。

人生には何があるかわからないので、今は元気な祖父母でも、いつどうなるかわかりません。だから、1日1日を大切に感謝の言葉を言えるように、そして後悔しないような生き方をしたいと思います。

そこで素直になるために、まずはコミュニケーションをしっかりとろうと考えました。「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」など当たり前の挨拶ですが、きちんと言っていこうと思っています。

家族とはかけがえのない存在です。ふだんは会えない父、神楽の話ばかりしている兄や祖父、仕事でとても忙しいのに、いつも明るく元気に私の面倒をみってくれる祖母。そんな大切な家族に対して、これからはもう少し素直に接してみたいと思います。もうすぐ中学校を卒業します。大人に近づくにつれ、自分も将来、温かい家庭を作りたいと思うようになりました。そのためにも、感謝と素直な心で家族と接していきたいです。

「この家の子で幸せだよ。ありがとう。」

坂町立坂中学校

3年 光 井 満 月

「ただいま。」

私がそう言って玄関を開けると、いつもの母の言葉が台所から聞こえてきた。

「おかえりなさい。」

ご飯が炊ける香りやトントンと野菜を切る音とともに聞こえてくるそれは、日常であって特別なものではない。しかし、私にとって母がかけてくれる「おかえり」の言葉は、元気をくれる魔法の言葉なのだ。

私は少し前まで女子バレーボール部のキャプテンだった。人をまとめるということは難しいもので、どうすればいいんだろうと悩んだこともたくさんあった。

「キャプテンらしいこと1つもしていない。」などということ言われたこともあった。私も私なりに頑張っているつもりだったが、部内がまとまっていないのも事実だった。ゆえに、その言葉は胸に刺さった。

チームをまとめるにはどうすれば良いのだろうか。ああでもない、こうでもないと自問自答しながら帰路をたどった。私にはチームをまとめるキャプテンなんて向いていないのだ、とキャプテンをやめてしまおうかと考えることもあった。気分が落ちこんだまま、家の玄関を開けた。

「ただいま……。」

ご飯の炊ける香りと食材を切る音が聞こえた。

「おかえりなさい。今日は満月の好きなカレーだよ。」

いつもの母の優しい微笑みが、一段とおだやかに感じた。私は母の声を聞いた瞬間、鼻の奥がツンとして涙がこぼれそうになった。いつもの母の優しさに触れて、その優しさが私を肯定してくれているように感じたのだ。母が私に返事をしてくれて、私の好物をつくってくれたことが嬉しかったのだ。認められていないキャプテンなんてもう必要ないだろうと思っていたが、そうではなかった。まだ私を肯定してくれる人がいたのだ。その日から私は、最後の試合まで頑張ろうと決心した。そして、最後の日までキャプテンとしての務めを果たすことができた。

3年生が引退して次のキャプテンが決まった。今のバレーボール部のキャプテンは私の妹だ。たくさんの辛いことがあるだろう。私のように悩むこともあるだろう。チームメイトから嫌なことを言われるかもしれない。それでもあきらめずに頑張っておほしい。母が私にしたように、私も妹に「おかえり」を言いたい。とびきりの笑顔で妹の味方になりたい。なぜなら家族だからだ。

あなたは家族が家に帰ってきた時「おかえり」とむかえているだろうか。その一言で救われる人がいるのだ。そのちょっとしたぬくもりが、何気ない言葉が嬉しいのだ。玄関は大切な人が帰ってくる場所だ。だからこそ、私は「お疲れ様」「頑張ったね」と心を込めて「おかえり」と言いたい。

特選

東広島市立小谷小学校

2年 谷本 遼



ザリガニとったどー

入選

熊野町立熊野第一小学校

1年 中原 静那



かぞくでプールにいきました

広島市立飯室小学校

4年 安間 伊吹



家族4人でお風呂そうじ。ピカピカになりました。

三次市立みらさか小学校

4年 加坂 結菜



年間行事を仲よく楽しんでいるカレンダー

東広島市立西条小学校

6年 西村 悠



いところ初めて森の中でキャンプをしました。

広島市立牛田小学校

6年 大之木 里早



お正月, ひいおばあちゃんといっしょに。

## 平成28年度「家庭の日」作文・図画募集要項

- 趣 旨 健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。  
青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。  
この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、小・中学生が、家族や家庭について日頃思っていることや感じていること、家族と一緒に体験したことなどを作文や図画に表現した作品を募集します。
- 対 象 者 県内に在住の小・中学生
- 応 募 数 作品は応募校で事前審査し、各学年5名以内で応募してください。  
なお、作品を書いた児童・生徒全員に参加賞を贈りますので、作品の応募総数を明記してください。
- 応募方法
- 作 文
- ・400字詰め原稿用紙3枚程度とします。
  - ・縦書きとし、はっきりと書いてください。
  - ・題の次に、学校名・学年・名前（ふりがな）を記入してください。
- 図 画
- ・作品は4つ切りの画用紙とします。
  - ・画材は自由です。（クレパス、水彩絵の具等）
  - ・裏面の「図画応募用紙」に記載し、作品の裏に貼付してください。
  - ・作品のコメントも忘れずに記載してください。
- 注意事項
- ・一人1点に限ります。
  - ・本人の作品で未発表のものに限ります。
  - ・提出された作品は、返却しません。
  - ・企業名や商号の入った作品は対象外となります。
  - ・作成指導に当たっては、作品に直接手を加えないようにお願いします。
  - ・図画は送付時に丸めないでください。
- 応募締切 平成28年9月9日（金）
- 送 付 先 〒730 - 8511 広島市中区基町10番52号 広島県環境県民局県民活動課内  
公益社団法人青少年育成広島県民会議  
TEL082 - 513 - 2742 ・ FAX082 - 511 - 2173
- 主 催 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 後 援 広島県・広島県教育委員会
- 協 賛 広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、広島安佐ロータリークラブ、（敬称略、順不同）
- 審査・発表
- (1) 応募作品は、審査委員会を設けて厳正に審査し、入賞作品を決定します。
  - (2) 特選者には、青少年育成県民運動推進大会（10月29日開催）において、広島県知事から賞状及び賞品を授与し、併せて副賞として5万円の旅行券を贈ります。
  - (3) 入選者には、賞状及び賞品を贈ります。
  - (4) 応募者全員に、参加賞を送ります。参加校は必ず応募者の控えをお持ちください。
  - (5) 入賞作品は、当県民会議発行の入賞作品集や情報誌など広く活用させていただきます。

# 審査員名簿及び審査要領

## ●作文の部審査員

- 藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事  
和田 晋 広島市公立中学校長会会長・広島県中学校教育研究会国語部会会長  
石田 睦子 三次市教育委員会社会教育委員  
倉迫 昭宏 広島県環境県民局県民活動課長  
黒小 大介 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事

## ●作文の部審査要領

### 1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 3 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 上位 20 作品程度を選定する。

### 2 審査の方法

#### (1) 事前審査

- ・小学校低・高学年, 中学生の部をとおして, 「家庭の日」の理解度, 感銘度, 論題にそつた論旨, 論点の整理, 表現力, 文の構成等を審査する。
- ・評点は 10 段階評価とする。
- ・特選を 10 点満点とし, 小・中学生をとおして, 特選 3 作品を選定する。
- ・入選は上位 20 作品程度を選定する。
- ・学年ごとに平均して選定しなくても良い。

#### (2) 審査会

事前審査の結果をもとに協議し, 相互調整して特選, 入選を選定する。

## ●図画の部審査員

- 濱田 昭法 元広島県教育研究会美術部会会長・元広島市教育研究会美術部会会長  
倉迫 昭宏 広島県環境県民局県民活動課長  
藤崎 綾 広島県立美術館主任学芸員  
河村 陽子 広島県教育委員会義務教育指導課指導主事  
藤原久美子 (公社) 青少年育成広島県民会議常務理事

## ●図画の部審査要領

### 1 選定方法

- (1) 特選 (県知事賞) . . . 1 作品
- (2) 入選 (会長賞) . . . 5 作品

### 2 審査の方法

- (1) 作品ごとに, 表現力, 構成力, 家庭の日の理解度等を審査する。
- (2) 候補作品を学年ごとに並べ, 審査員は 1 学年ごとに, 5 点ぐらい選定する。なお, 各審査員同士が同一作品を選定しても良い。
- (3) 候補作品は必ずしも各学年から均等に選ばなくてもよいが, できれば小学校(低・中・高学年), 中学校のバランスを考慮する。
- (4) 審査員が全学年の作品を見た後, (2)で選んだ作品を全部並べ, その中から特選 1 点, 入選 5 点を協議により選定する。

# 平成28年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

小学校の部		作 文							図 画							応募 総数	参加 人数			
番号	学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	4年	5年	6年			計	図・参加人数	
1	東広島市立平岩小学校		1	1			1	3	3			2	1	1		4	4	7	7	
2	広島市立幡町小学校			2				3	5	4	1	2	1		1	9	9	14	14	
3	広島市立龜山小学校			1				1	1							0	0	1	1	
4	北広島町立新庄小学校	1			1	1		3	3							0	0	3	3	
5	広島市立緑井小学校	1	1	3	1	1	1	8	8							0	0	8	8	
6	東広島市立寺西小学校		5	5	4	5	5	24	190	5	3	2				10	10	34	200	
7	広島市立山田小学校	1	1	2	1			5	5	6	4	4	2	1		17	17	22	22	
8	広島市立翠町小学校	2	2					4	4	2	2	1				5	5	9	9	
9	東広島市立東西条小学校		1	1	1			3	6	6						0	0	6	6	
10	東広島市立下黒瀬小学校					1		1	1	3	1	1		1		6	6	7	7	
11	福山市立多治米小学校		1		1		1	3	3	5	1	1			1	8	8	11	11	
12	熊野町立熊野第二小学校							0	0		1					1	1	1	1	
13	広島市立伴東小学校			1	1			1	3	3						0	0	3	3	
14	三原市立小泉小学校	4	1					5	5							0	0	5	5	
15	呉市立宮原小学校				1			1	1							0	0	1	1	
16	広島市立高須小学校			1	3			3	7	7	5	3	4	2	1	4	19	23	26	30
17	広島市立口田東小学校					1		1	1	5	5	2	2			14	16	15	17	
18	東広島市立御園宇小学校				1	1		2	2	3	1	1				5	5	7	7	
19	広島市立戸山小学校							0	0		1					1	1	1	1	
20	広島市立石内小学校		1		1	1		3	3	4				1		5	5	8	8	
21	広島市立牛田小学校	3	1	4	3	1	2	14	14	5	4	5	1	1	1	17	17	31	31	
22	竹原市立大栗小学校							0	0	1		1				2	2	2	2	
23	三次市みらさか小学校							0	0	2	2		1			5	5	5	5	
24	東広島市立三ツ城小学校				5	4	1	10	12	3	3		1	1	1	9	9	19	21	
25	東広島市立高屋西小学校	1	3	3	1	5	5	18	29	3	3	3			3	12	14	30	43	
26	東広島市立西志和小学校					1		1	1	1		1		1		3	3	4	4	
27	東広島市立小谷小学校		3	5	5	5	5	23	23	5	3	5		5	1	19	19	42	42	
28	三次市立酒河小学校							0	0	2	1	3				6	6	6	6	
29	福山市立西小学校							0	0	5		1				6	12	6	12	
30	東広島市立郷田小学校							0	0	1	1					2	2	2	2	
31	庄原市立高野小学校			1	2			3	3	1						1	1	4	4	
32	世羅町立世羅小学校							0	0		1					1	1	1	1	
33	広島市立飯室小学校			1				1	1		1		2	1	1	5	5	6	6	
34	広島市立南観音小学校							0	0	1	1					2	2	2	2	
35	東広島市立板城西小学校							0	0	1	1					2	2	2	2	
36	竹原市立仁賀小学校							0	0		1					1	1	1	1	
37	広島市立筒瀬小学校		1					1	1	3						3	3	4	4	
38	東広島市立西条小学校	2	5	5	3	5	5	25	160	5	4	5	5	5	1	25	80	50	240	
39	福山市立御幸小学校					5	3	8	8	2	3				5	10	10	18	18	
40	福山市立戸手小学校			2				2	13			1				1	56	3	69	
41	大崎上島町立大崎小学校						5	5	18	1	2			1		4	4	9	22	
42	熊野町立熊野第三小学校				1	2	4	7	7		2		1			3	3	10	10	
43	呉市立波多見小学校							0	0		1					1	1	1	1	
44	呉市立坪内小学校							0	0			1				1	1	1	1	
45	府中町立府中南小学校							0	0	4	3		2	2		11	11	11	11	
46	神石高原町立豊松小学校							0	0		1					1	1	1	1	
47	呉市立昭和北小学校		2			1		3	3					1		1	1	4	4	
48	呉市立三坂地小学校	1	1	1				3	3	1					1	2	2	5	5	
49	熊野町立熊野第四小学校		1		1	2	1	5	8	5	4	5	1			15	33	20	41	
50	竹原市立竹原西小学校	5	5	1	2	5	5	23	71	1	2		1			4	4	27	75	
51	坂町立横浜小学校							2	2	2						0	0	2	2	
52	広島大学附属三原小学校	1				3	3	7	7							0	0	7	7	
53	呉市立荏山田小学校			2	1	2		5	5							0	0	5	5	
54	広島市立楠那小学校	1	1					2	2	6	4	2	2			14	14	16	16	
55	広島市立吉島東小学校				1	1		2	2			1				1	1	3	3	
56	広島市立己斐小学校	1		1				2	2	4	3	1	1			9	9	11	11	
57	広島市立東野小学校	2		1	1			1	5	5	3	5	4	2	2	1	17	28	22	33
58	呉市立阿賀小学校			1				1	1	2	1	4	1			8	8	9	9	
59	尾道市立栗原小学校			2	3			5	5			2	2			4	4	9	9	
60	廿日市市立平良小学校							0	0	3	1				1	5	5	5	5	
61	東広島市立中黒瀬小学校	2	1					3	3	2	1			2		5	5	8	8	
62	福山市立春日小学校		5					5	28	1	4					5	5	10	33	
63	三原市立糸崎小学校			5				5	22							0	0	5	22	
64	尾道市立百島小学校		1		1			2	2							0	0	2	2	
65	広島市立大町小学校		1					1	2	2	3	5	2	1	1	12		14	2	
66	熊野町立熊野第一小学校	1			1			2	2	5		2	3	1		11	56	13	58	
67	尾道市立向島中央小学校	3	4	3	2	5	1	18	73	1		1	2			4	5	22	78	
68	庄原市立川北小学校				1			1	1							0	0	1	1	
69	東広島市立吉川小学校			2				2	2							0	0	2	2	
70	東広島市立入野小学校	3	2	5	1			1	12	12		1			1	2	2	14	14	
	合 計	35	52	62	50	58	63	320	804	125	92	70	37	29	23	376	563	696	1367	

## 平成28年度「家庭の日」に関する作文・図画応募校一覧表

中学校の部		作文					図画					応募 総数	参加 人数
番号	学校名	1年	2年	3年	計	作・参加人数	1年	2年	3年	計	図・参加人数		
1	三原市立幸崎中学校	3	4	3	10	55				0	0	10	55
2	広島市立広島中等教育学校	5	2	5	12	17				0	0	12	17
3	広島学院中学校	6			6	6				0	0	6	6
4	福山市立培遠中学校		5		5	5				0	0	5	5
5	三原市立第四中学校	1		2	3	3				0	0	3	3
6	広島市立中広中学校	3	2		5	60				0	0	5	60
7	三次市立布野中学校			1	1	1				0	0	1	1
8	東広島市立中央中学校	2	4	5	11	11				0	0	11	11
9	広島市立古田中学校		1	4	5	37				0	0	5	37
10	広島市立楠那中学校	1	2		3	3				0	0	3	3
11	府中市立府中中学校		5		5	25				0	0	5	25
12	三原市立第二中学校		3	2	5	5				0	0	5	5
13	廿日市市立野坂中学校	5	5	5	15	15				0	0	15	15
14	三原市立宮浦中学校	5			5	120				0	0	5	120
15	広島市立砂谷中学校	2	2	8	12	20				0	0	12	20
16	三原市立久井中学校	2	4	3	9	14				0	0	9	14
17	福山市立誠之中学校	5	5	5	15	52				0	0	15	52
18	三原市立第三中学校	3	4	2	9	55				0	0	9	55
19	府中市立上下中学校	2			2	2				0	0	2	2
20	広島市立龜山中学校				0	0			1	1	1	1	1
21	広島市立牛田中学校	5	4	4	13	13				0	0	13	13
22	福山市立鞆中学校		5	2	7	11				0	0	7	11
23	東広島市立高美が丘中学校	4	2		6	10				0	0	6	10
24	安芸太田町立加計中学校			2	2	2				0	0	2	2
25	広島市立東原中学校	2	2	3	7	7				0	0	7	7
26	呉市立広中央中学校	1			1	1				0	0	1	1
27	広島市立五日市中学校	5	4	1	10	161				0	0	10	161
28	廿日市市立四季が丘中学校				0	0		1	1	2	2	2	2
29	坂町立坂中学校	3	5	4	12	12				0	0	12	12
30	広島県立広島中央特別支援学校		1		1	1				0	0	1	1
31	広島市立五月が丘中学校		2	4	6	6				0	0	6	6
32	広島市立長束中学校	5	1	2	8	9				0	0	8	9
33	福山市立常金中学校		1		1	1				0	0	1	1
34	東広島市立西条中学校	5	5	5	15	58				0	0	15	58
35	海田町立海田西中学校	5	5	2	12	14				0	0	12	14
36	呉市立宮原中学校			2	2	2				0	0	2	2
37	呉市立仁方中学校		1	2	3	5				0	0	3	5
38	呉市立呉中央中学校	5	5	3	13	17				0	0	13	17
39	江田島市立江田島中学校				0	0		2		2	2	2	2
40	広島市立瀬野川東中学校	5	5		10	10				0	0	10	10
41	呉市立吉浦中学校	2	1	1	4	4				0	0	4	4
42	呉市立片山中学校	5	3	3	11	34				0	0	11	34
43	呉市立音戸中学校	3	5	4	12	12				0	0	12	12
44	呉市立郷原中学校	3	2	1	6	6				0	0	6	6
45	竹原市立賀茂川中学校	6	3		9	9				0	0	9	9
46	三原市立大和中学校		3	5	8	38				0	0	8	38
47	東広島市立松賀中学校	1	1	1	3	20				0	0	3	20
48	海田町立海田中学校			2	2	2				0	0	2	2
49	安芸太田町立戸河内中学校	3	1	1	5	5				0	0	5	5
50	安芸高田市立吉田中学校	5	5	5	15	61				0	0	15	61
51	武田中学校		5		5	5				0	0	5	5
52	東広島市立安芸津中学校	5	5	5	15	15				0	0	15	15
53	東広島市立磯松中学校	1		7	8	8				0	0	8	8
54	広島市立可部中学校	6	8		14	14				0	0	14	14
55	呉市立両城中学校	2		3	5	5				0	0	5	5
56	呉市立横路中学校	5	4	2	11	11				0	0	11	11
57	三次市立八次中学校	5	2	2	9	9				0	0	9	9
58	福山市立一ツ橋中学校				0	0			1	1	1	1	1
	合 計	142	144	123	409	1104	0	3	3	6	6	415	1110

# 「あいさつ」で 咲かせよう 笑顔の花

「あいさつ」することから、コミュニケーションが始まります。

人と人の心のつながりが生まれるきっかけとなります。

あなたの一言で笑顔が生まれます。

まずは「おはよう」から始めてみませんか？



広島県の青少年の  
マスコット  
ゆっぴー

11月は子供・若者育成支援強調月間です。

広島県、広島県教育委員会、広島県警察、(公社)青少年育成広島県民会議、市町、市町教育委員会、各青少年育成市区町民会議及び青少年育成関係団体

発行

公益社団法人  
青少年育成広島県民会議

〒730-8511  
広島市中区基町 10-52  
広島県環境県民局県民活動課内

TEL082-513-2742  
FAX082-511-2173

URL:<http://www.hiro-payd.or.jp/>